

**令和6年度**

**まどか**

**第39集**

**栃木県立栃木特別支援学校**

## 巻 頭 言

栃木県立栃木特別支援学校長 保坂 麻紀

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことを機に、学校教育は新たな局面を迎えています。制限されていた対面での学習活動が再開され、急速なデジタル化が進む中、児童生徒の資質・能力を育成するための新しい学び方が求められています。

本校では、この激動の時代において、児童生徒がもてる力を高め、可能な限り自己の力を発揮し、より良く生きるために必要な力を養うことを教育目標に、令和5年度と6年度の2年間、教職員一丸となって授業改善に取り組んでまいりました。この度、その成果をまとめた「まどか」第39集を発行する運びとなりました。

本研究紀要では、知的障害教育部門、肢体不自由教育部門、病弱教育部門ひばり分教室、舎務部がそれぞれ、本校の教育目標に基づいた以下の実践研究に取り組み、その成果を報告しています。

- ・知的障害教育部門、肢体不自由教育部門： 自立的に生きる力を育むための指導の充実
- ・病弱教育部門ひばり分教室：児童生徒の意欲を高めるために、効果的にオンラインを活用するための授業実践～事前学習の充実の視点から～
- ・舎務部： ICT機器を活用した生活指導の充実

これらの研究では、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、ICTの活用や本校独自の「学びのあしあと確認表」を用いた実態把握、目標及び学習場面の設定などを推進してまいりました。特に、知的障害教育部門と肢体不自由教育部門の教職員は一人一事例を挙げるなど、実践的な取組を通じて、指導方法の共有と連携、児童生徒の自信や主体的な学習意欲を高めることができました。

変化の激しい社会において、児童生徒は自ら学び、考え、判断する力が求められています。本校では、一人一人の児童生徒の可能性を最大限に引き出す教育を推進するため、今後も教職員一同、研鑽を積み重ね、より効果的な教育方法を模索してまいります。本研究紀要が、本校教職員をはじめとする教職員の皆様の教育実践の参考となり、今後の授業改善に少しでもお役に立てれば幸いです。また、様々な視点から御意見・御指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、本研究に尽力していただいた教職員の皆様、ならびに、御理解と御協力を賜りました保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

# 目 次

## 巻 頭 言

## 実 践 報 告

### ◆知的障害教育部門

|   |    |
|---|----|
| 『各教科等を合わせた指導において各教科の基本的な知識・技能を習得し、<br>自立的に生きる力を育むための指導』 | 1  |
| 令和5年度小学部実践事例「歯磨き」                                       | 4  |
| 令和5年度中学部実践事例「洗濯」  | 7  |
| 令和5年度高等部実践事例「清掃」  | 10 |
| 令和6年度小学部実践事例（各学年一事例）                                    | 13 |
| 令和6年度中学部実践事例（各学年一事例）                                    | 19 |
| 令和6年度高等部実践事例（各学年一事例）                                    | 22 |

### ◆肢体不自由教育部門

|   |    |
|---|----|
| 『各教科等を合わせた指導において各教科の基本的な知識・技能を習得し、<br>自立的に生きる力を育むための指導』 | 26 |
| 令和6年度実践事例（4事例）  | 29 |

### ◆病弱教育部門

#### ひばり分教室

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 『効果的にオンラインを活用するための授業実践—事前学習の充実の視点から—』 | 34 |
|---------------------------------------|----|

### ◆舎務部

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 『教育用 ICT 端末を活用した生活指導・支援の充実』 | 46 |
|-----------------------------|----|

## 編 集 後 記

## 知的障害教育部門実践報告

### 『各教科等を合わせた指導において各教科の基本的な知識・技能を習得し、自立的に生きる力を育むための指導の充実』

#### 1 はじめに

##### (1) テーマ設定の理由

本校では、「自立的に生きる力を育むための指導」として、小学部段階において学級の係活動や行事などの役割の中で責任感を持って仕事に取り組むための指導を、中学部、高等部では、作業学習を通して働くために必要な基本的な知識、技能、態度を高め主体的に活動に取り組もうとする意欲や態度を身に付けるための指導を行っている。

また、食事、排せつ、清潔、健康、身の回りの整理など生活に関わる力について、小・中学部では9年間を見通した『生活スキルチェック表』を、高等部では『職業能力チェック表』を活用した実態把握と目標設定および指導を行ってきた。しかし、小学部から高等部卒業まで「自立的に生きる力」を育成するための継続した指導内容が整っていないことが課題であった。そこで、令和4年度から小学部から高等部卒業まで「自立的に生きる力を育む」ことを意識し、系統性と目標の焦点化に向けて、生活に関する指導内容や指導場面などの整理および明確化を図ってきた。

令和5年度からはこれらのチェック表および学習指導要領の「生活」「職業・家庭」「家庭」の目標や指導内容を整理した『学びのあしあと確認表』を作成し、『キャリア・パスポート』と連携して活用することとした。特に、各教科等を合わせた指導において、実生活に即した学習内容や指導場面の設定がされる「生活に関する」学習を小学部から高等部の卒業まで12年間の学校生活の中で系統的・計画的に学習を進めることで、自立に向け必要な知識・技能の構築と定着を図ることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

##### (2) 研究計画（令和5年度から2か年） ※学部ごとに実態に応じて研究を進めていく

| 月           | 学部での取組   |
|-------------|--|
| 令和5年<br>4月  | ○『キャリア・パスポート』『学びのあしあと確認表』の作成、活用方法の確認<br>○『キャリア・パスポート』の作成 |
| 5月          | ○『学びのあしあと確認表』の作成   |
| 6～7月        | ○指導の実践（各学部1事例）   |
| 8月          | ○事例検討会①<br>『キャリア・パスポート』、『学びのあしあと確認表』の活用方法についての検討         |
| 9～12月       | ○指導の実践   |
| 令和6年<br>12月 | ○事例検討会②指導実践の発表（指導経過、内容の検討、改善）                            |
| 1～3月        | ○『キャリア・パスポート』、『学びのあしあと確認表』の作成（1年間の振り返り）<br>○研究のまとめ       |

|            |   |
|------------|---|
| 令和6年<br>4月 | ○『キャリア・パスポート』、『学びのあしあと確認表』の作成、活用方法の確認<br>○『キャリア・パスポート』の作成 |
| 5月         | ○『学びのあしあと確認表』の作成  |
| 5～7月       | ○指導実践（各学年1事例）   |
| 8月         | ○事例検討会（学年）①（指導経過、内容の検討、改善）                                |
| 9～12月      | ○指導実践   |
| 12月        | ○事例検討会（学年）②（指導経過、内容の検討、改善）                                |
| 2月         | ○研究成果報告   |

## 2 実践報告

### (1) 令和5・6年度実践報告

ア 『キャリア・パスポート』、『学びのあしあと確認表』

『キャリア・パスポート』は、「将来に向かって」、「自分のことを知ろう・振り返りシート」（資料）を児童生徒の実態に合わせて使用した。

『学びのあしあと確認表』は「日常生活編」（資料）、「洗濯・衣服の手入れ編」（資料）、「掃除編（資料）」を使用した。令和6年度は令和5年度の検討を基に「調理編」、「買い物編」を追加して実態把握をした。

イ 『キャリア・パスポート』、『学びのあしあと確認表』の作成・活用について

(ア) 作成・活用の目的

- ・『キャリア・パスポート』において『学びのあしあと確認表』を活用した実態把握を基に、目標の設定を行い指導内容、教材等を検討しながら児童生徒が自立的に生きる力を育むための力を高める。
- ・児童生徒に関わる教員が、児童生徒の実態や課題を共通理解し、指導方法や教材の検討・改善を繰り返すことで教員の専門性の向上を図る。

(イ) 作成の方法

a 4月～5月上旬

『キャリア・パスポート』「自分のことを知ろう」の作成・目標設定を行った。

『学びのあしあと確認表』の作成を行った。

年度始めにおける個別懇談等で保護者と確認をした。

b 2月～3月

『キャリア・パスポート』「自分のことを知ろう」の目標の振り返りをした。

『学びのあしあと確認表』を確認し、次年度の個別の指導計画に反映した。

年度末の個別懇談等で保護者と確認した。

(ウ) 活用の方法

a 『キャリア・パスポート』

『学びのあしあと確認表』に基づいた自己分析と目標設定を行った。

児童生徒のうまくいっているところを本人と共有、目標設定、学習成果の蓄積、振り返りを行った。

保護者と目標や成長の共有をした。

b 『学びのあしあと確認表』

児童生徒の実態把握および目標を定め、どのような学習場面で指導するかを明確化した。データベース化を行い、児童生徒の実態や学習状況を蓄積し、指導に関するデータを抽出し、授業作りに生かした。

データベース化したことで、下図のように、学級全員分の入力シートがまとめられており、児童生徒一人ひとりの実態について各項目に入力すると、点数化が行われレーダーチャートとして表示される。

| 学びのあしあと確認表②(洗濯編) |       |    |                              |       | R5.4 |   | 生徒1         |    |
|------------------|-------|----|------------------------------|-------|------|---|-------------|----|
| 重点内容             | 目安の教科 | 段階 | チェック項目                       | 学びの機会 |      |   | 達成率         |    |
|                  |       |    |                              | A     | B    | C |             |    |
| 洗濯機・手洗い          | 算数    | 中Ⅱ | 洗濯機のボタン操作ができる                | ○     | ○    |   | 洗濯機・手洗い(中Ⅱ) | 42 |
|                  | 算数    | 中Ⅱ | 適当な量の洗濯物で洗濯することができる          | ○     |      |   | 洗濯機・手洗い(中Ⅰ) | 56 |
|                  | 算数    | 中Ⅱ | 適量の洗剤を使用することができる             | ○     |      |   | 洗濯干し        | 56 |
|                  | 算数    | 中Ⅱ | 衣類の汚れやポケットの中身を確認して洗濯することができる | ○     |      |   | 衣類畳み(中Ⅰ)    | 89 |
|                  | 算数    | 中Ⅰ | もみ洗い、つまみ洗い、おし洗いをすることができる     | ○     | ○    |   | 衣類畳み(高Ⅰ)    | 67 |
|                  | 算数    | 中Ⅰ | 衣類を手ですすぎ、絞ることができる            | ○     | ○    |   |             |    |
|                  | 算数    | 中Ⅰ | 靴を洗うことができる                   | ○     |      |   |             |    |
|                  | 算数    | 中Ⅰ | 干す前に衣類のしわ伸ばしをすることができる        | ○     |      |   |             |    |
|                  | 算数    | 中Ⅰ | 干すときに襟や袖などの衣類の乱れを直すことができる    | ○     |      |   |             |    |
|                  | 算数    | 中Ⅰ | 洗濯機・手洗いで洗濯機・手洗いの汚れを落とすことができる | ○     | ○    |   |             |    |



ウ 事例検討会

(ア) 検討会の目的

- ・『学びのあしあと確認表』の活用方法について検討し、より使いやすいものにする。
- ・生活に関する指導の内容や教材、手立てなどを検討し、各教科等における生活に関する指導を通して、一人一人の生活に関する内容の目標を達成させる。
- ・生活に関する指導に関する教員の専門性を高める。

(イ) 検討会の実施方法

- ・8月、12月に検討会を実施した。

<令和5年度>

『学びのあしあと確認表』の活用方法についての検討を行った。(学年)

生活に関する指導についての実践事例報告を行い、発表後は指導内容や手立てについて話し合った。(学部)

<令和6年度>

生活に関する指導についての実践事例報告を行い、必要に応じて教材や映像を提示して発表を行った。発表後は指導内容や手立てについて話し合った。(学年)

エ 令和5年度 各学部における『学びのあしあと確認表』を活用した実践事例  
 (ア) 小学部「歯みがき」

対象 小学部3年 男

○児童の実態

- ・知的障害、コミュニケーション障害、自閉症の疑い
- ・気持ちが安定しているときは、簡単な言葉での指示で行動することができる。
- ・指差しや単語で要求を伝えることができる。

○指導場面

- ・日常生活の指導 給食後の歯磨きの場面

○歯みがきの実態（4月）

- ・歯ブラシを口に入れることはできるが動かすことは難しい。
- ・仕上げ磨きに対する抵抗感が強い。
- ・口をゆすぐことが難しい。

『学びのあしあと確認表』における手洗い・うがい・歯みがきの実態（4月）

| 重点内容    | 目安の教科          | 段階  | チェック項目               | 学びの度合 |   |   | 重点取組年・学期 |
|---------|----------------|-----|----------------------|-------|---|---|----------|
|         |                |     |                      | A     | B | C |          |
| 手洗い・うがい | 生活<br>体育       | 小 I | 石鹸を泡立てることができる        |       | ○ |   |          |
|         | 生活<br>体育       | 小 I | 石鹸を洗い流すことができる        |       | ○ |   |          |
|         | 生活             | 小 I | ハンカチで手を拭くことができる      |       | ○ |   |          |
|         | 生活             | 小 I | ハンカチ・ちり紙を携帯することができる  |       | ○ |   |          |
|         | 体育             | 小 I | コップから水を含み、ためることができる  | ○     |   |   |          |
|         | 生活<br>体育       | 小 I | ブクブクうがいをするすることができる   |       |   |   |          |
|         | 生活<br>体育       | 小 I | ガラガラうがいをするすることができる   |       |   |   |          |
| 歯みがき    | 生活<br>保健<br>体育 | 小 I | 歯ブラシを歯に当て、動かすことができる  | ○     |   |   |          |
|         | 生活<br>保健<br>体育 | 小 I | 大人の仕上げ磨きを受け入れることができる |       | ○ |   |          |
|         | 生活<br>保健<br>体育 | 小 I | まんべんなく歯を磨くことができる     | ○     |   |   |          |

○指導目標

- ・手本を見て歯みがきやうがいをするすることができる。

○指導の手立て

- ・給食後に「歯磨き動画」を使って手本を示しながら歯みがきをする。
- ・動画に合わせて歯ブラシを当てる場所を教師と確認しながら歯磨きをする。
- ・仕上げ磨きは鏡の前で動画と同じ手順で、10までの数を数えて行う。
- ・鏡の前で水を口に含み教師の手本を見ながら一緒に口をゆすぐ練習をする。

○児童の変容

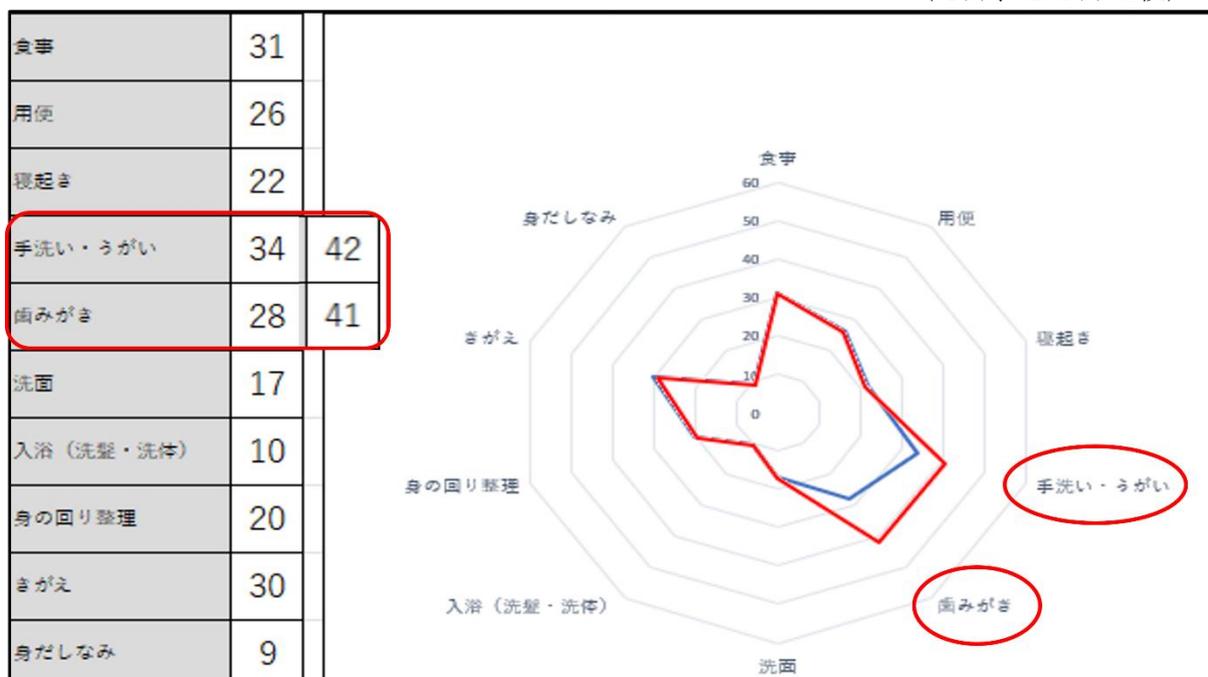
『学びのあしあと確認表』における手洗い・うがい・歯みがきの実態（10月）

| 重点内容    | 目安の教科      | 段階 | チェック項目               | 学びの度合 |   |   | 重点取組年・学期 |
|---------|------------|----|----------------------|-------|---|---|----------|
|         |            |    |                      | A     | B | C |          |
| 手洗い・うがい | 生活<br>体育   | 小I | 石鹸を泡立てることができる        |       | ○ |   |          |
|         | 生活<br>体育   | 小I | 石鹸を洗い流すことができる        |       | ○ |   |          |
|         | 生活         | 小I | ハンカチで手を拭くことができる      |       | ○ |   |          |
|         | 生活         | 小I | ハンカチ・ちり紙を携帯することができる  |       | ○ |   |          |
|         | 体育         | 小I | コップから水を含み、ためることができる  | ○     | ○ | ○ |          |
|         | 生活<br>体育   | 小I | ブクブクうがいをするすることができる   | ○     | ○ |   |          |
|         | 生活<br>体育   | 小I | ガラガラうがいをするすることができる   |       |   |   |          |
| 歯みがき    | 生活<br>保健体育 | 小I | 歯ブラシを歯に当て、動かすことができる  | ○     | ○ |   |          |
|         | 生活<br>保健体育 | 小I | 大人の仕上げ磨きを受け入れることができる |       | ○ | ○ |          |
|         | 生活<br>保健体育 | 小I | まんべんなく歯を磨くことができる     | ○     |   |   |          |



- ・磨く力は弱いですが、動画を見ながら歯ブラシを同じ部分に当てて動かすことができるようになってきた。
- ・10までの数を数える間は仕上げ磨きを受け入れられるようになってきた。
- ・口に水を含み、ゆすぐことができるようになってきた。

『学びのあしあと確認表』のレーダーチャートにおける手洗い・うがい・歯みがきの実態（4月、10月比較）



- ・歯磨きの指導によって、歯みがき、手洗い・うがいの項目が伸びたことが分かる。

## ○成果

動画に注目して着席して取り組むことができた。また、歯ブラシを歯に当てて動かす時間が4月に比べて少しずつ増えてきている。うがいでは、教師の手本を見て口ゆすぎができるようになってきた。この成果は『学びのあしあと確認表』を活用しながら実態把握を行ったり、指導方法を検討したりしたことで対象児童の実態に合った指導や教材で学習できたからだと考える。

(イ) 中学部「洗濯」

対象 中学部 3年 4名

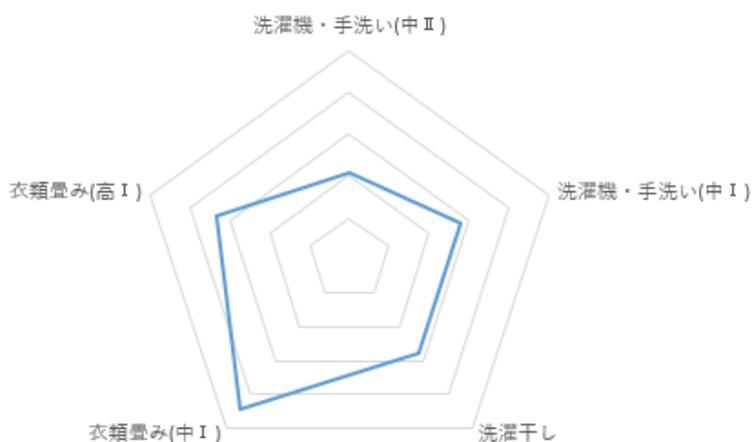
○指導場面

・職業・家庭、日常生活の指導（給食、清掃、着替え）

○実態把握 1（『学びのあしあと確認表』の活用）

| 重点内容    | 目安の教科      | 段階 | チェック項目                        | 学びの度合 |   |   | 重点取組年・学期 |
|---------|------------|----|-------------------------------|-------|---|---|----------|
|         |            |    |                               | A     | B | C |          |
| 洗濯機・手洗い | 職業家庭       | 中Ⅱ | 洗濯機のボタン操作ができる                 |       | ○ |   |          |
|         | 算数<br>職業家庭 | 中Ⅱ | 適当な量の洗濯物で洗濯することができる           | ○     |   |   |          |
|         | 算数<br>職業家庭 | 中Ⅱ | 適量の洗剤を使用することができる              | ○     |   |   |          |
|         | 職業家庭       | 中Ⅱ | 衣類の乱れやポケットの中身を確認して洗濯することができる  | ○     |   |   |          |
|         | 職業家庭       | 中Ⅰ | もみ洗い、つまみ洗い、おし洗いをする事ができる       |       | ○ |   |          |
|         | 職業家庭       | 中Ⅰ | 衣類を手ですすぎ、絞ることができる             |       | ○ |   |          |
|         | 職業家庭       | 中Ⅰ | 靴を洗うことができる                    | ○     |   |   |          |
| 洗濯干し    | 職業家庭       | 中Ⅰ | 干す前に衣類のしわ伸ばしをすることができている       | ○     |   |   |          |
|         | 職業家庭       | 中Ⅰ | 干すときに襟や袖などの衣類の乱れを直すことができている   | ○     |   |   |          |
|         | 職業家庭       | 中Ⅰ | 洗濯物によって干す道具を選ぶことができる          |       | ○ |   |          |
|         | 算数<br>職業家庭 | 中Ⅰ | ピンチハンガーのバランスがとれている            | ○     |   |   |          |
|         | 算数<br>職業家庭 | 中Ⅰ | ハンガーを適切に使用することができる            |       | ○ |   |          |
|         | 職業家庭       | 中Ⅰ | ピンチハンガーから衣類を外す際は、一つずつ外すことができる |       |   | ○ |          |

|             | 達成率 |
|-------------|-----|
| 洗濯機・手洗い(中Ⅱ) | 42  |
| 洗濯機・手洗い(中Ⅰ) | 56  |
| 洗濯干し        | 56  |
| 衣類畳み(中Ⅰ)    | 89  |
| 衣類畳み(高Ⅰ)    | 67  |



○実態把握 2（職業・家庭「衣類の手入れをしよう（洗濯）」の授業から）

| No. | 洗濯の様子（○できたこと ●難しかったこと）  |
|-----|---|
| 1   | ○手順表を見ながら、もみ洗い、つまみ洗いをすることができた。<br>●ピンチハンガーのバランスを取ることが難しかった。   |
| 2   | ○手順表を見ながら、もみ洗い、つまみ洗いをすることができた。<br>●洗いやすすぎの程度に関する理解が難しかった。     |
| 3   | ○教師の言葉掛けを受けて、もみ洗い、すすぎ、絞りを行うことができた。<br>●洗いやすすぎの程度に関する理解が難しかった。 |
| 4   | ○教師の言葉掛けを受けて、もみ洗い、すすぎ、絞りを行おうとすることができた。<br>●自己流になることがあった。      |

○指導目標及び指導内容の検討 1（『学びのあしあと確認表』の活用）

| No. | 達成率                 |                     |      |                  |                  |
|-----|---------------------|---------------------|------|------------------|------------------|
|     | 洗濯機.手洗い<br>(中学部2段階) | 洗濯機.手洗い<br>(中学部1段階) | 洗濯干し | 衣類畳み<br>(中学部1段階) | 衣類畳み<br>(高等部1段階) |
| 1   | 42                  | 56                  | 56   | 89               | 67               |
| 2   | 50                  | 67                  | 67   | 94               | 67               |
| 3   | 50                  | 67                  | 72   | 94               | 67               |
| 4   | 42                  | 44                  | 44   | 72               | 67               |

<検討項目 1> 継続して指導できる内容を取り入れる。

○指導項目及び指導内容の検討 2

（『学びのあしあと確認表』の活用と実態把握より）

| No. | 達成率               |                   |      |                |                |
|-----|-------------------|-------------------|------|----------------|----------------|
|     | 洗濯機.手洗い（中<br>2段階） | 洗濯機.手洗い（中<br>1段階） | 洗濯干し | 衣類畳み<br>(中1段階) | 衣類畳み<br>(高1段階) |
| 1   | 42                | 56                | 56   | 89             | 67             |

| No. | 洗濯の様子   |
|-----|---|
| 1   | ○手順表を見ながら、もみ洗い、つまみ洗いをすることができた。<br>●ピンチハンガーのバランスをとることが難しかった。 |

<検討項目 2> 何となく「できている」とされていた状態を見直し、細かな部分もできるように指導する。

○指導目標及び指導内容の検討（検討項目1と検討項目2より）

（給食前）自分の机を台ふきんで拭く。

⇒No.4の生徒に絞り方、No.1の生徒に干し方を重点的に指導

（給食前）給食を配るとき、エプロンを着用する。使用したら畳んで袋にしまう。

⇒畳み方、しまい方の指導

（着替え）制服をハンガーに掛ける際、衣服の乱れを直したり、ハンガーを適切に使ったりする。

⇒No.1の生徒に衣服の適切な整理方法を指導

（清掃の時間（月2回程度））交代で台ふきんの洗濯をする。

⇒手順に沿って洗濯を实践

○成果

- ・データを読み取る際に、達成できている理由、達成できていない理由を考えることで、一人一人の実態の理解につながった。
- ・集団の活動を行う際、活動中での生徒個人の重点目標を明確化することで、教員間で共通理解を図ることができた。

(ウ) 高等部「清掃」

対象 高等部 1年 男

○生徒の実態

- ・知的障害
- ・指示を聞き、おおむね指示通りに行動することができる。
- ・主体的に判断して行動することは難しい。

○指導場面

- ・日常生活の指導、家庭生活（生活単元学習）、特別教室清掃

○清掃の実態（4月）

- ・これまでの掃除の経験の中で、基本的な掃除の仕方について学んでいるため、ほうきや雑巾の使い方に関しておおむね理解している。
- ・正しい机や窓の拭き方、適切な手順等に関しては定着していない。

『学びのあしあと確認表』における清掃の実態（4月）

| 重点内容           | 教科               | 段階 | チェック項目                              | マスター度<br>合い |   |   | 重点取組<br>年・学期 |
|----------------|------------------|----|-------------------------------------|-------------|---|---|--------------|
|                |                  |    |                                     | A           | B | C |              |
| いろいろな場所を拭く     | 生活<br>職業家庭       | 小Ⅲ | 自分のロッカーの中を手順どおりに拭くことができる            |             | ○ |   |              |
|                | 生活<br>国語<br>職業家庭 | 小Ⅲ | 長机を手順どおりに拭くことができる                   |             | ○ |   |              |
|                | 生活<br>職業家庭       | 小Ⅲ | 手のひらを布巾や雑巾の中央に置き、力を入れて拭くことができる      |             |   | ○ |              |
| ほうき<br>(座敷ほうき) | 生活<br>職業家庭       | 小Ⅱ | ほうきを適切に持つことができる                     |             |   | ○ |              |
|                | 生活<br>職業家庭       | 小Ⅲ | 体の前で軽い力でほうきを横に動かし、掃くことができる          |             |   | ○ |              |
|                | 生活<br>職業家庭       | 中Ⅰ | 軽い力で横に掃きながら前方へ向かって真っすぐに進むことができる     |             |   | ○ |              |
|                | 生活<br>職業家庭       | 中Ⅱ | 端を掃いた後、その部分に少し重ねるようにして掃きながら進むことができる |             | ○ |   |              |
| ちりとり           | 生活<br>職業家庭       | 小Ⅲ | ちりどりの先を床につけ、傾けて持つことができる             |             |   | ○ |              |
|                | 生活<br>職業家庭       | 中Ⅰ | ほうきの動きに従って下がることことができる。              |             | ○ |   |              |
|                | 生活<br>職業家庭       | 中Ⅱ | 取り残しなくごみを取ることが出来る                   |             | ○ |   |              |

○指導目標

- ・場所や用途によって必要な用具がわかる。
- ・使う用具の種類や使い方、掃除の手順が分かり、自ら進んで掃除に取り組むことができる。

○指導の手立て

- ・生徒同士の学び合いを進めるため、生徒同士で手順を確認したり、教え合ったりする場面を設ける。
- ・互いの良かった点や改善点を振り返られるように、タブレットで清掃の様子を撮影する。

○生徒の変容

『学びのあしあと確認表』における清掃の実態（12月）

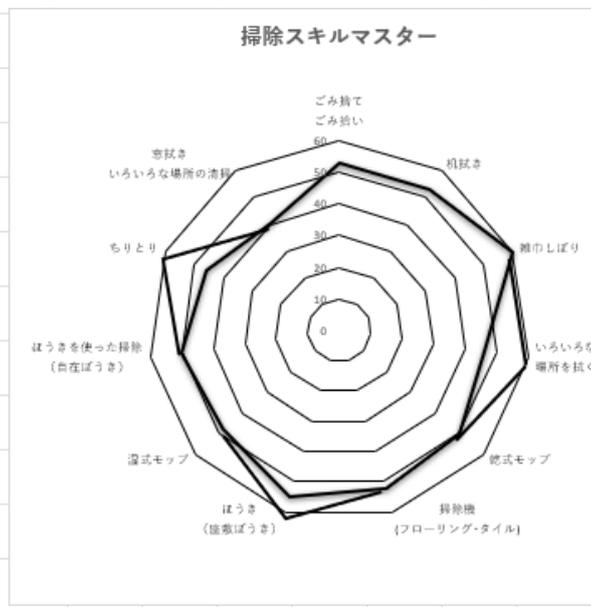
| 重点内容           | 教科               | 段階 | チェック項目                              | マスター度合い |   |   | 重点取組年・学期 |
|----------------|------------------|----|-------------------------------------|---------|---|---|----------|
|                |                  |    |                                     | A       | B | C |          |
| いろいろな場所を拭く     | 生活<br>職業家庭       | 小Ⅲ | 自分のロッカーの中を手順どおりに拭くことができる            |         | ○ | ○ |          |
|                | 生活<br>国語<br>職業家庭 | 小Ⅲ | 長机を手順どおりに拭くことができる                   |         | ○ | ○ |          |
|                | 生活<br>職業家庭       | 小Ⅲ | 手のひらを布巾や雑巾の中央に置き、力を入れて拭くことができる      |         |   | ○ |          |
| ほうき<br>(座敷ほうき) | 生活<br>職業家庭       | 小Ⅱ | ほうきを適切に持つことができる                     |         |   | ○ |          |
|                | 生活<br>職業家庭       | 小Ⅲ | 体の前で軽い力でほうきを横に動かし、掃くことができる          |         |   | ○ |          |
|                | 生活<br>職業家庭       | 中Ⅰ | 軽い力で横に掃きながら前方へ向かって真っすぐに進むことができる     |         |   | ○ |          |
|                | 生活<br>職業家庭       | 中Ⅱ | 端を掃いた後、その部分に少し重ねるようにして掃きながら進むことができる |         | ○ | ○ |          |
| ちりとり           | 生活<br>職業家庭       | 小Ⅲ | ちりとりの先を床につけ、傾けて持つことができる             |         |   | ○ |          |
|                | 生活<br>職業家庭       | 中Ⅰ | ほうきの動きに従って下がることことができる。              |         | ○ | ○ |          |
|                | 生活<br>職業家庭       | 中Ⅱ | 取り残しなくごみを取ることもできる                   |         | ○ | ○ |          |



- ・場所によって雑巾の面の大きさを変えたり、机や長机を手順通りに拭いたりすることができるようになってきた。
- ・ほうきで掃いたり、雑巾で拭いたりした際に、一度掃除したところに少し重ねて掃除することを理解して取り組むことができるようになった。
- ・ちりとりを下げながらごみを全て取ることができるようになった。

『学びのあしあと確認表』における清掃の実態（4月、12月比較）

|                      |    |    |
|----------------------|----|----|
| ゴミ捨て<br>ごみ拾い         | 53 |    |
| 机拭き                  | 53 |    |
| 雑巾しぼり                | 60 |    |
| いろいろな<br>場所を拭く       | 46 | 60 |
| 乾式モップ                | 50 |    |
| 掃除機<br>(フローリング・タイル)  | 52 |    |
| ほうき<br>(座敷ほうき)       | 55 | 60 |
| 湿式モップ                | 48 |    |
| ほうきを使った掃除<br>(自在ほうき) | 50 |    |
| ちりとり                 | 46 | 60 |
| 窓拭き<br>いろいろな場所の清掃    | 40 |    |



○成果

『学びのあしあと確認表』で生徒の『学びの度合い』を正確に把握することで、生徒

同士の学び合いを効果的に進められるようグルーピングに配慮することができた。『学びの度合』に差がある生徒を同じグループにしたことで、生徒同士で手順を確認したり、教え合ったりする様子が見られるなど、生徒の主体的な取組を引き出すことにつながったと考える。

オ 知的障害教育部門 令和5年度のまとめ

『学びのあしあと確認表』をデータ化し、単元の目標設定や授業のグルーピングに役立てる。『学びのあしあと確認表』、キャリアパスポートの書式や項目を検討し、より使いやすくしていく。生活に関するスキル習得のための教材をさらに充実させ、学部や学校全体で共有していけるようにする。

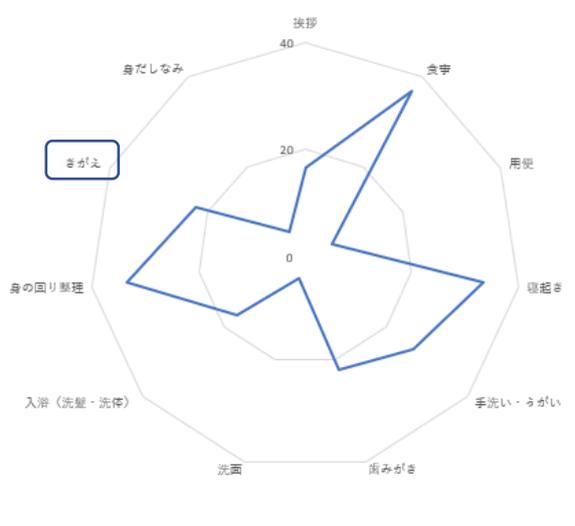
カ 令和6年度 各学部における『学びのあしあと確認表』を活用した実践事例

| 知的障害教育部門 小学部 1年【通常課程】 |  |
|-----------------------|--|
| 教科名等                  | 日常生活の指導  |
| 題材名                   | トイレトレーニング  |
| 児童・生徒の実態              | <p>【レーダーチャート】</p> <p>【指導項目】 用便</p>   |
| 指導内容に関する実態            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレで排せつすることに対して抵抗感があつたが、徐々に改善されてきた。</li> <li>・オムツやパットに排尿した後、自分から教師に伝えることができる。</li> <li>・自分のやりたいことを優先してしまうこともあるが、教師の言葉掛けを受けて、定時にトイレに行くことができるようになってきた。</li> <li>・友達がトイレに行く様子を見て、自分から「トイレ行く。」と教師に伝えることがある。</li> </ul>   |
| 指導目標                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から尿意を告げ、教師と一緒にトイレに行くことができる。</li> </ul>   |
| 指導手立て                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にトイレに行くタイミングを伝え、気持ちの準備ができるようにする。</li> <li>・少量でも排尿できたときは、大いに褒めて自信が持てるようにする。</li> <li>・成功した際に『トイレカード』にシールを貼り、できたことを目に見える形で残していくことで、排せつすることへの意欲を育てる。</li> </ul>   |
| 指導場面                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の指導</li> </ul>   |
| 児童生徒の変容               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレに行く際に「怖い。」と表現して嫌がる様子が見られなくなった。</li> <li>・教師が事前にトイレに行くタイミングを伝えておくことで、やりたいことがあっても気持ちを切り替えることができるようになってきた。</li> <li>・トイレに行く際、自分で尿パットとビニール袋を準備することができるようになった。</li> <li>・家庭でも、嫌がらずにトイレに行けるようになってきた。</li> <li>・トイレで排尿することへの自信や意欲が高まり、学校や放課後等デイサービスで自分からトイレに行きたいことを伝えられるようになった。</li> </ul> |
| 成果と今後の課題              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日中はパンツで過ごすことが定着しつつある。</li> <li>・新しい場所や慣れない環境ではトイレに行くことへの抵抗があり、自分から尿意を伝えたり、教師の言葉掛けに応じたりすることが難しい。様々な場面でトイレを使用し、成功体験を積み重ねることで、さらに自信を育てていけるとよい。</li> </ul>   |

| A 部門 小学部 2年【通常課程】   |         |                   |    |
|---|---------|-------------------|----|
| 教科名等  | 日常生活の指導 | 題材名               | 食事 |
| <b>児童・生徒の実態</b>   |         | <b>【レーダーチャート】</b> |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害、自閉スペクトラム症</li> <li>・簡単な言葉での指示を聞いて行動できることが多い。</li> <li>・クレーン動作や簡単なサインで要求を伝えることができる。</li> <li>・繰り返し取り組むことで、動画や教師の動きを見て、動きを模倣することができる。</li> </ul>   |         |                   |    |
| <b>指導内容に関する実態</b>   |         |                   |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・右手でスプーンを持ち、食事をしている。言葉掛けを受けると、器に左手を添えることができる。</li> <li>・左手が椅子に置かれていることが多く、自分から左手を使うことはまだ難しい。</li> </ul>  |         | <b>【指導項目】 食事</b>  |    |
| <b>指導目標</b>   |         |                   |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・器やどんぶりを左手で押さえたり、持ったりして食事をするすることができる。</li> </ul>   |         |                   |    |
| <b>指導手立て</b>  |         |                   |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べる前に食器の押さえ方や持ち方を確認してから食べ始めるようにする。</li> <li>・左手が使えていないときは、左手に触れたり、言葉掛けをしたりして左手を意識できるようにする。</li> <li>・給食以外の場面でも、両手を使う活動に取り組む。(例：椅子移動時は両手で椅子を持ち上げる、ちぎる、引っ張る、ひも通しなどの活動)</li> </ul>   |         |                   |    |
| <b>指導場面</b>   |         |                   |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の指導 (給食)</li> <li>・自立活動</li> </ul>  |         |                   |    |
| <b>児童生徒の変容</b>  |         |                   |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご飯がすくにくいときなどに自分から左手で食器を押さえる様子が見られるようになってきた。</li> <li>・11月頃、抜けそうな歯が気になって、自分でスプーンを持って食べない時期があった。教師がスプーンに一口分のご飯を乗せておいたり、ご飯を小分けにしたりすると、自分でスプーンを持ち、ご飯をすくって食べるようになったが、左手で器を押さえることは少なくなってしまった。現在は教師からの言葉掛けを受けたり、教師が左手に触れたりすることで左手を意識し、器に添えることができている。</li> </ul>  |         |                   |    |
| <b>成果と今後の課題</b>   |         |                   |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・左手で食器を押さえることができるようになってきていたが、歯が気になってからは左手を意識することが難しくなっている。今までの指導を継続していき、左手を使うことを定着させていく。</li> <li>・両手を使う活動として、ペットボトルキャップの開け閉め、牛乳パックやカップデザートのかぶたを開けることを行ってきた。ふたがきつく締まっていると開けるのが難しいようだが、ゆるめにするとうちで開けることができた。パンやジャムの袋など柔らかい材質のものは、自分で開けることが難しく、教師が大きく切り込みを入れておくと自分で開けることができる。今後も、様々な活動を通して同時に両手を使う活動を経験していけるとよい。</li> </ul> |         |                   |    |

| 知的障害教育部門 小学部 3年【通常課程】   |         |                   |       |
|---|---------|-------------------|-------|
| 教科名等  | 日常生活の指導 | 題材名               | 箸の扱い方 |
| <b>児童・生徒の実態</b>   |         | <b>【レーダーチャート】</b> |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害、ダウン症</li> <li>・恥ずかしさで声が小さくなったり、下を向いたりすることがあるが、慣れてくると簡単な言葉でやりとりができる。</li> <li>・指先に力を入れて作業することが苦手な様子だが、デザートのカップを開けたり、上着のファスナーを開けたりすることができるようになってきた。</li> </ul>   |         |                   |       |
| <b>指導内容に関する実態</b>   |         |                   |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べることが好きで、給食に意欲的である。</li> <li>・6月ごろから補助箸を使用し始め、ご飯や一口大に切ったハンバーグなどをつまんで食べることができている。</li> <li>・早く食べたい気持ちが強く、食べ物を次々に口の中へ入れてしまうことがある。</li> </ul>   |         |                   |       |
| <b>指導目標</b>   |         |                   |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・箸を使って食事をするができる。</li> </ul>  |         |                   |       |
| <b>指導手立て</b>  |         |                   |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・持ちやすい補助箸（箸がつながっていて指の位置がはっきり分かるもの）から始め、スモールステップで箸の段階を上げていくようにする。</li> <li>・ご飯やみそ汁の器を適切な高さまで持つように言葉掛けをする。</li> <li>・おかずやご飯を小分けにして、適切な量をつまめるようにする。</li> </ul>  |         |                   |       |
| <b>指導場面</b>   |         |                   |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の指導（給食）</li> <li>・自立活動など</li> </ul>   |         |                   |       |
| <b>児童生徒の変容</b>  |         |                   |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・一口大の大きさであれば、補助箸ではさむことができるようになってきた。</li> <li>・千切りの野菜や小さく切った肉などをおわんの縁に集めてはさむことができつつある。</li> <li>・補助箸を使って、おはじきをはさむことができるようになった。</li> </ul>   |         |                   |       |
| <b>成果と今後の課題</b>   |         |                   |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・煮物や丸みの帯びた野菜などは滑ってしまうことがあるが、皿を傾けたり、皿の縁に沿うようにしてはさんだりすることで、箸を自分なりに使いながら食べることができるようになった。</li> <li>・今後、教室では食べ物に見立てた様々な形や大きさ、硬さのスポンジやプラスチックなどを、補助箸を使ってケースに入れる学習をしていく。</li> <li>・数年後に箸が使えることを目標にスモールステップで指導を継続していく。</li> </ul> |         |                   |       |

| 知的障害教育部門 小学部 4年 【通常課程】   |  |
|--|--|
| 教科名等   | 日常生活の指導  |
| 題材名  | 着替え  |
| 児童・生徒の実態   | 【レーダーチャート】   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害</li> <li>・写真やイラストなどの視覚的情報があれば、活動の流れをおおまかに理解することができる。</li> <li>・気持ちが向かないと活動を拒否することがある。が、言葉掛けを変えながら促すことで、活動に参加できる。</li> <li>・2語文程度で要求を伝えることができる。</li> </ul> |  |
| 指導内容に関する実態   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・鏡を見ながら体操着の名札の位置を確認することで、正しく着用できているかが分かるようになってきた。</li> <li>・体操着の前後が反対だと分かると着替えを拒否することがあるが、教師が机に体操着を広げ、「こっこの面から着るよ。」とヒントを与えることで、最後まで着替えをすることができる。</li> </ul>     |  |
| 指導目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体操着の前後を正しく着ることができる。</li> </ul>   |
| 指導手立て  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体操着を正しく着用している児童の写真カードを提示し、「上衣の体操着は名前が前」、「下衣の体操着は名前が後ろ」にあることを確認する。</li> <li>・体操着に目印となるシールを貼り、どちらの面から着ればよいか分かるようにする。</li> <li>・鏡を見て、「上衣の体操着は名前が前」、「下衣の体操着は名前が後ろ」にあることを確認する。</li> </ul>   |
| 指導場面   | 日常生活の指導 朝の着替えの場面   |
| 児童生徒の変容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・着替え後、自分から鏡の前に行き、体操着の前後（体操着の名札の位置）を確認するようになった。</li> <li>・体操着に目印となるシールを貼り、どちらの面から着ればよいか分かるようにしたこと、着替え直すことが減り、途中で着替えを拒否することが減った。</li> <li>・自分から着替えの籠を持ってきたり、意欲的に着替えを進めたりする姿が見られるようになった。</li> </ul>  |
| 成果と今後の課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体操着に貼ったシールを手掛かりに着替えをすることで、前後を正しく着用できるようになった。また、鏡で体操着の名札の位置を見て、正しく着用できたかを確認することができた。以上のことから、視覚支援が指導の手立てとして有効であると考えられる。</li> <li>・今年度は、教師が児童の体操着にシールを貼り、目印を示した。今後は、教師と確認しながら児童がシールを貼る、児童一人でシールを貼るという段階を踏んで、最終的にシールなしでも着られるように支援を減らして行けると良い。</li> </ul> |

| 知的障害部門 小学部 5年【通常課程】 |   |
|---------------------|---|
| 教科名等                | 日常生活の指導   |
| 題材名                 | 着替え   |
| <b>児童・生徒の実態</b>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害、ダウン症</li> <li>・主に教師の言葉掛けや手引きを受けて、移動や活動をしている。ゆっくりではあるが、簡単な言葉での指示を聞いて動き出すことが増えてきた。</li> <li>・自分の好きなものや欲しいものを指さして選ぶことができる。</li> </ul>   |
| <b>指導内容に関する実態</b>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・上衣と下衣を逆に着ようとしていることがあるが、言葉掛けや指さしを受けて直すことができる。</li> <li>・色分けの課題ができる。体育着の種類を主に色で判別している。</li> <li>・ゆっくりとはあるが、覚えたことを確実に行うことができる。</li> </ul>  |
| <b>指導項目】</b>        | <b>【レーダーチャート】</b><br><br><b>【指導項目】 さがえ</b>  |
| <b>指導目標</b>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育着の違いが分かり、上衣と下衣を正しく選んで着ることができる。</li> </ul>   |
| <b>指導手立て</b>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・机の上に、上衣と下衣のイラストを貼り、その上に衣服を置いてから着替えるようにする。</li> <li>・体育着の違いやどこに何を着たらよいかの理解につながるように、体育着を広げ、人型の段ボールに体育着を置いていく課題や、着せ替え人形に体育着を正しく着せる課題を取り入れる。</li> <li>・いくつかの様々な色や形の具体物やカードの中から目的の物を見つける活動を行う。</li> </ul>  |
| <b>指導場面</b>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の指導（着替えの時間）</li> <li>・自立活動</li> </ul>   |
| <b>児童生徒の変容</b>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・机上のイラストに合わせて自分で体育着を置いたり、段ボール上に衣服を置いてセッティングしたりして着替えることができるようになった。また、下衣を脱ぐ、体育着の下衣を履く、上衣を脱ぐ、体育着の上衣を着るといった流れが身に付いてきた。</li> <li>・衣服の色だけでなく、形やファスナーの位置などを見て、人型の段ボールに衣服を正しく置くことができるようになった。</li> <li>・ホワイトボード上の体育着の着せ替え人形の課題ができるようになった。</li> </ul>  |
| <b>成果と今後の課題</b>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育着はデザインが統一されており、白か青の2色であるため色や形を見て判断することができるようになった。そのため、体育着の上下の間違いがなくなった。</li> <li>・私服に関しては様々な形やデザインがあるため、上下の間違いや間違った場所から頭や足を入れていることがある。洋服の形を見て上下を判断できるように継続して指導していく。</li> <li>・長袖の上衣については、形を見て正しく選ぶことができるようになったが、上衣には青と白の2種類があり、先に青、次に白を着ていることもある。上衣を着る順番についても継続して指導していく。</li> </ul> |

| 知的障害教育部門 小学部 6年【通常課程】   |         |            |        |
|---|---------|------------|--------|
| 教科名等  | 日常生活の指導 | 題材名        | 給食の片付け |
| 児童・生徒の実態  |         | 【レーダーチャート】 |        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害</li> <li>・教師による簡単な指示を理解して行動に移すことができる。</li> <li>・興味がある物事に自ら「やりたい」と意思表示することができる。</li> </ul>  |         |            |        |
| 指導内容に関する実態  |         |            |        |
| 指導内容に関する実態  |         |            |        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・片付けの場所に自ら移動することはできるが、同じ種類、同じ向きで片付けることが難しい。</li> <li>・教師が本児が持った食器を見て、所定の場所を指さして示すことで、片付けを行っている。一人ですべて行うのは難しい。</li> </ul>   |         |            |        |
| 指導目標  |         |            |        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ終わった食器を、同じ種類、同じ向きで所定の場所に片付けることができる。</li> </ul>  |         |            |        |
| 指導手立て   |         |            |        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・籠を一か所にまとめて入れるのではなく、1種類ずつ取り出して、対象の食器がどれなのか分かりやすくする。</li> <li>・言葉掛けをしたり、指さしたりして手元や食器を注視できるようにする。</li> <li>・自立活動などで、マッチング課題や手元を注視する課題を併せて行う。</li> </ul>  |         |            |        |
| 指導場面  |         |            |        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の指導（給食）</li> <li>・自立活動</li> </ul>   |         |            |        |
| 児童生徒の変容   |         |            |        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動で、手元を注視する学習を並行して行っていたことで、教師の言葉掛けを受けて手元をよく見るようになった。</li> <li>・違いが分かりやすい食器は、一人で片付けることができるようになった。大きさの違いや向きの違いは、食器をよく見るよう言葉掛けを受けることで、違いに気付いて正しい場所に片付けられるようになってきている。</li> </ul>  |         |            |        |
| 成果と今後の課題  |         |            |        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・食器を片付ける箇所を指さして示すことで、同じ種類のところに食器を片付けることができるようになった。また、向きが違う際は言葉掛けをして正しい向きになるよう繰り返し練習を行うことで、徐々にではあるが、向きを自分で確認し、正しくない時は自分から向きを直す様子が見られるようになってきた。</li> <li>・今後の課題としては、教師の指さしや指示が無くても所定の場所に一人で片付けることができるよう、食器の種類や片付ける箇所を分かりやすく示すなど、手立てを工夫しながら継続して指導を行っていく。</li> </ul> |         |            |        |

| 知的障害教育部門   |       | 中学部                | 1年【通常課程】   |
|--|-------|--------------------|------------|
| 教科名等   | 職業・家庭 | 題材名                | 衣服の手入れをしよう |
| 児童・生徒の実態   |       | 【レーダーチャート】         |            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害、自閉症、注意欠陥多動性障害(ADHD)</li> <li>・主指導の教師の説明を聞いておおむね指示を理解し、簡単な活動に取り組むことができる。</li> <li>・教師の言葉掛けを聞きながら、自分の気持ちを言葉で伝えることができる。</li> </ul>   |       |                    |            |
| 指導内容に関する実態   |       |                    |            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭で積極的に手伝いをすることができるが、洗濯の経験はほとんどない。</li> <li>・台拭きを洗い、自分の方法で水が垂れない程度に絞ることができる。</li> <li>・教師の言葉掛けを聞きながら、台拭きの縦絞りをする練習に取り組むことができる。</li> </ul>   |       | 【指導項目】洗濯機・手洗い、洗濯干し |            |
| 指導目標   |       |                    |            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・手順表を見ながら、靴下の手洗いをして、ピンチハンガーに干すことができる。</li> </ul>  |       |                    |            |
| 指導手立て  |       |                    |            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の説明を聞き、「洗面器」や「洗剤」など、靴下の手洗いに必要な道具について知る。</li> <li>・職業・家庭の時間に、靴下の手洗いに関する動画や教師の手本を見て、「つまみ洗い」や「もみ洗い」の仕方について知る。</li> <li>・手順表を見て確認しながら、靴下の手洗いをする。</li> <li>・教師の言葉掛けや指さし、手添えの支援を受け、「つまみ洗い」や「もみ洗い」で部分ごとに洗い分ける経験をする。</li> <li>・靴下を絞って水気をきり、大まかにしわを伸ばしてピンチハンガーに干す。</li> </ul>   |       |                    |            |
| 指導場面   |       |                    |            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業・家庭 洗濯をしよう（洗濯の練習）、掃除（雑巾を洗ったり絞ったり干したりする練習）</li> <li>・日常生活の指導（台拭きを洗ったり絞ったり干したりする練習）</li> </ul>   |       |                    |            |
| 児童生徒の変容  |       |                    |            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・手順表を見ながら、最後まで自分で一連の流れに取り組むことは難しいが、教師の言葉掛けを聞いてその都度確認すると、手順通りに一人で取り組むことができた。</li> <li>・汚れの程度に気付き、自ら「つまみ洗い」や「もみ洗い」などをして洗い分けをすることは難しいが、教師が、洗うべきポイントに気付くことができるような言葉掛けや指さしを行うと、汚れた部分を意識して洗おうとすることができた。</li> <li>・教師が手添えの支援をして「つまみ洗い」や「もみ洗い」を一緒に行ってから一人で取り組むよう促すと、靴下をつまむ指の形や手の動かし方などを自分なりに模倣し、靴下の手洗いをすることができた。</li> </ul> |       |                    |            |
| 成果と今後の課題   |       |                    |            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「衣服の手入れをしよう」という学習の中で、手ごろな大きさで扱いが容易で、汚れに気付きやすい「靴下」を題材としたが、今後は、難易度を少しずつ上げながら、それ以外の衣類の手洗いも行うことができるようになることよい。</li> <li>・手順表を一人で確認しながら最初から最後まで取り組むことがまだ難しいので、一人でも自信を持って取り組むことができるよう学習を繰り返し、スキルを身につけることができるとよい。</li> </ul>   |       |                    |            |

| 知的障害教育部門   |       | 中学部                 | 2年【通常課程】   |
|--|-------|---------------------|------------|
| 教科名等   | 職業・家庭 | 題材名                 | 衣服の手入れをしよう |
| <b>児童・生徒の実態</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害</li> <li>・教師の話を聞いて活動に見通しを持つことができ、教師と一緒に目標を考えたり、活動を振り返ったりすることができる。</li> <li>・簡単なゲームのルールが分かり、積極的に取り組んだり、友達を応援したりすることができる。</li> <li>・決まった場面では丁寧な言葉遣いで報告や依頼ができるようになってきた。</li> <li>・自分から挨拶をすることができる。</li> </ul>                    |       | <b>【レーダーチャート】</b>   |            |
| <b>指導内容に関する実態</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師にトイレに行くことを伝えて一人でできるが、身なりを整えて出てくるのが難しい。言葉を掛けると鏡を見て直すことができる。</li> <li>・細かな部分では支援が必要だが、毎日繰り返し行っている身の回りのことは自ら行うことができる。</li> </ul>  |       | <b>【指導項目】衣服の手入れ</b> |            |
| <b>指導目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形を整えて上衣や下衣をハンガーにかけることができる。</li> </ul>  |       |                     |            |
| <b>指導手立て</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着替えから衣服の片付けまでの流れを決め、毎日同じ手順で行う習慣を身に付ける。</li> <li>・ハンガーを机に置いてゆっくり衣服を掛ける。</li> <li>・衣服を掛けたハンガーを手で持ち、丸まっていたり、折れていたりは、きれいに直せるようにする。</li> <li>・上衣のえりの内側のタグを合わせるようにするため、ハンガーの中心に赤い印をつけて、下衣はズボンを広げて机に置き、半分に折り、裾からハンガーに通して掛けるようにする。</li> </ul> |       |                     |            |
| <b>指導場面</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業・家庭（衣服の手入れをしよう）・日常生活の指導（着替え）</li> </ul>  |       |                     |            |
| <b>児童生徒の変容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ手順で行うようにしたり、ハンガーの印を合わせるように言葉を掛けながら行ったりしたことで、本人の意識も高まり、徐々にできるようになってきた。</li> <li>・着替える際に着替え籠の置き場所がバラバラだったのが椅子に置いたり、机を広く使用したりすることなども定着してきた。</li> </ul>   |       |                     |            |
| <b>成果と今後の課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し毎日の着替え時間に行うことで、本人の意識も高まり、実践できるようになってきた。本生徒の特徴でもあるが、音や人の話し声で注意散漫になってしまうことがあるが、状況に応じてパーティションを使用して、形を整えることに集中できるようにして環境整備も必要であると感じた。また、使用しているハンガーも、滑りにくい素材や扱いやすい形状のものを使用することも検討していくとよい。</li> </ul>                                |       |                     |            |

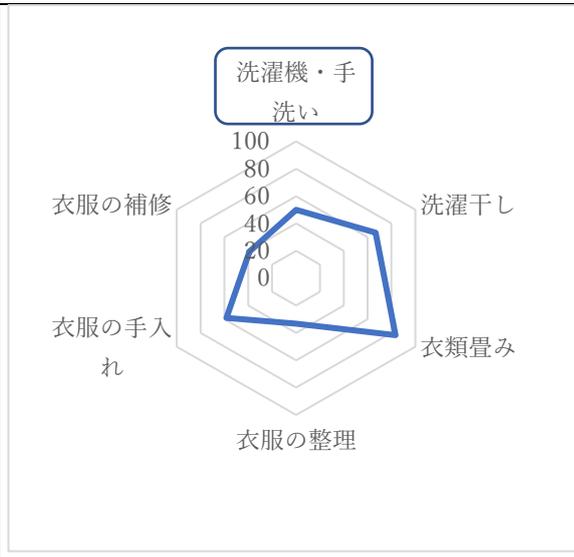
知的障害教育部門 中学部 3年【通常課程】

|      |       |     |    |
|------|-------|-----|----|
| 教科名等 | 職業・家庭 | 題材名 | 洗濯 |
|------|-------|-----|----|

児童・生徒の実態

- ・知的障害、ダウン症
- ・学習や手伝いなど意欲的に取り組むことができる。
- ・指示を聞いて行動することができるが、自分のやりたいことを優先してしまうことがある。
- ・指摘を受けると落ち込むしぐさを見せたり、固まってしまったりすることがある。
- ・動画や教師の動きを見て、動きを模倣することができる。

【レーダーチャート】



指導内容に関する実態

- ・雑巾を濡らして、絞ることができる。
- ・雑巾をこすって洗うことはできるが、汚れを意識していないことがある。
- ・手早く済ませたい気持ちが勝り、雑になってしまうことがある。

【指導項目】 洗濯機・手洗い

指導目標

- ・汚れを意識して、もみ洗いやつまみ洗いなどの手洗い洗濯をすることができる。

指導手立て

- ・床の雑巾がけや食後のテーブル拭きの後に、教師と一緒に雑巾や台ふきんの汚れを確認してから洗うようにする。
- ・教師の手本を見ながら一緒に行うことで、意欲的に取り組み、洗い方を身に付けられるようにする。
- ・毎回、洗う前と洗った後の汚れの違いを確認することで、汚れを意識できるようにする。
- ・汚れているとどうしていけないのかを理解できるよう、丁寧に説明する。

指導場面

- ・職業・家庭（洗濯）
- ・日常生活の指導（給食前後）
- ・学級活動（清掃）

児童生徒の変容

- ・雑巾や台ふきんの汚れがどこにあるか、教師と一緒に確認することで汚れを意識して洗うことができた。教師と一緒に取り組むことで、意欲的に取り組むことができた。丁寧にきれいにできた際には、大いに称賛することで意欲を継続して取り組み、もみ洗いやつまみ洗いのやり方を覚えることができた。

成果と今後の課題

- ・正しいやり方の提示や、確認、言葉掛けの工夫により、意欲を持って取り組むことができ、もみ洗いやつまみ洗いを覚えることができた。今後、教師の確認や言葉掛けがない場合に、同じように実践できるかが課題であり、支援を減らしつつも、適宜言葉掛けや確認を継続する必要があると思われる。また、汚れの程度に応じて洗剤の使用や適切な使用量なども習得できるとよい。

| 知的障害教育部門 高等部 |  | 1年【通常課程／総合コース】 |    |
|--------------|--|----------------|----|
| 教科名等         | 日常生活の指導<br>生活単元学習（家庭生活）  | 題材名            | 清掃 |
| 児童・生徒の実態     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害</li> <li>・集団での学習に参加し、主指導者の指示を聞いて活動することができる。</li> <li>・動画や教師の動きを見たり、説明を聞いたりして、そのように行うことができる。</li> <li>・自分の気持ちや要求など、言葉で伝えることができる。</li> </ul>  | 【レーダーチャート】     |    |
| 指導内容に関する実態   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブルを拭くことはできるが、友達と会話すること、遊ぶことが優先されて、自分から取り掛かることが難しいことがある。</li> <li>・ほうきを動かしてごみを集めることはできるが、隅々までを意識して清掃することはまだ難しい。学習を繰り返すことで、できるようになると思われる。</li> </ul>   | 【指導項目】 机拭き     |    |
| 指導目標         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・床掃除やテーブル拭きなどの清掃の技術を高めることができる。</li> <li>・給食前に、自分から配膳台拭き、消毒を行うことができる。</li> </ul>   |                |    |
| 指導手立て        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の示範により、テーブル拭き、消毒、ほうきとちりとりを使った床清掃の学習を行う。</li> <li>・配膳の前に、配膳台拭き、消毒を行うという約束をし、自分から行えないときには、言葉掛けをする。自分からできたときは称賛し、動機付けとする。</li> </ul>  |                |    |
| 指導場面         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の指導</li> <li>・生活単元学習（家庭生活）</li> </ul>  |                |    |
| 児童生徒の変容      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・配膳が始まる前に、配膳台を拭くということを係活動として意識できるよう配慮した。忘れてしまったり、遊んでいたり、友達と会話をしたりしていることがあるが、自分から取り掛かれることが確実に多くなってきた。</li> <li>・教室清掃の際、ほうきでごみを集め、ちりとりで取る活動をした。隅の方を意識してごみを取ることが一人ではまだ難しいが、床をよく見てほうきでごみを集めることが大体できるようになった。ちりとりで取り除くことも上手になった。</li> </ul>   |                |    |
| 成果と今後の課題     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・配膳前のテーブル拭きについては、意識が高まり、自分から取り掛かれることが多くなった。技術的にも向上し、隙間なく拭くことができた。</li> <li>・給食後のテーブル拭きは忘れがちで、言葉掛けが必要であることが多かった。</li> <li>・ほうきとちりとりを使った清掃は、上達が見られるが、隅の方への意識など、まだ課題があり、学習が必要である。</li> <li>・生活全般において、係活動や手伝いなどより、自分の楽しみを優先させてしまう傾向がある。時計を読むことができるが、授業の始まる時間を気にせずに友達と遊んでいたり、授業中でも授業と関係ない会話をしてしまったりすることが見られる。様々な活動場面で、約束事を確認し、反省、評価の時間を設けるようにし、そういった部分への意識の改善を図っていく必要性を感じている。</li> </ul> |                |    |

| 知的障害教育部門 高等部   |   | 2年【通常課程／産業コース】           |    |
|--|---|--------------------------|----|
| 教科名等   | 生活単元学習（職業生活）<br>作業学習  | 題材名                      | 清掃 |
| 児童・生徒の実態   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害</li> <li>・指示を聞いて行動できるが、全体指示は理解できていないときがある。</li> </ul>  | <b>【レーダーチャート】</b><br>    |    |
| 指導内容に関する実態   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・何事にも真面目に取り組むことができる。</li> <li>・ほうきやちりととりなどの基本的な清掃用具の使い方は理解しているが、それ以外の用具の使い方や場所によって適切な清掃用具を選択することは難しい。</li> </ul> |                          |    |
|  |   | <b>【指導項目】 いろいろな場所を拭く</b> |    |
| <b>指導目標</b>  |   |                          |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃場所によって適切な清掃用具を選択し、正しく使用することができる。</li> </ul>  |   |                          |    |
| <b>指導手立て</b>   |   |                          |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃用具の基本的な使い方や名称、用途について学習を積み重ねる。</li> <li>・実践的な学習を積み重ねて定着を図る。</li> </ul>  |   |                          |    |
| <b>指導場面</b>  |   |                          |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活単元学習（職業生活：清掃）</li> <li>・生活単元学習（家庭生活）</li> <li>・作業学習（ビルクリーニング班）</li> </ul>  |   |                          |    |
| <b>児童生徒の変容</b>   |   |                          |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃に関する経験不足により、清掃用具の選択や方法について難しい様子が見られていたが、作業学習（ビルクリーニング班）で継続して学習を積み重ねることで、机拭き、床拭き、窓ふきで使用する道具の名称や基礎的な使い方について、十分に習得することができた。</li> <li>・職業生活や毎週金曜の朝の学習でトイレ清掃に取り組むことで、トイレ清掃の手順が分かり、適切な用具を選択して清掃を行うことができた。</li> </ul> |   |                          |    |
| <b>成果と今後の課題</b>  |   |                          |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで経験不足であった教室以外での清掃についての学びを積み重ねることで、各清掃場所や目的に応じて道具を選択することができるようになってきた。</li> <li>・今後の課題としては、別の場面や場所で応用ができるか、また学校だけでなく実習先や家庭でも学習した内容を基に実践できるかが課題と考える。</li> </ul>   |   |                          |    |

| 知的障害教育部門 高等部 3年【通常課程／産業コース】 |  |
|-----------------------------|--|
| 教科名等                        | 生活単元学習（職業生活・家庭生活）<br>日常生活の指導   |
| 題材名                         | 清掃   |
| 児童・生徒の実態                    | <p>【レーダーチャート】</p> <p>【指導項目】 ほうきを使った掃除<br/>掃除機、ほうき、ちりとり</p>   |
| 指導内容に関する実態                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雑巾掛け、モップ掛け、ほうき、掃除機を使用することができる。</li> <li>・ 清掃の際、教室の橋や角など細かい部分まできれいにしようとする意識は低い。</li> <li>・ 早く終わらせたい気持ちが先走ることが多く、全体的に雑になる傾向がある。</li> </ul>  |
| 指導目標                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清掃をすることの意味を理解し、目的意識を持って丁寧な清掃を行うことができる。</li> </ul>   |
| 指導手立て                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清掃は場を清潔に保つことだけでなく、安全面や利用者の精神面にも大きく関わることを伝える。清掃がどんなことに影響をするかを考え、ワークシートにまとめることで明確な目的を持って取り組めるようにする。</li> <li>・ 基本的な掃除機とほうきの掛け方について、教師と一緒に正しい使い方を確認しながら定着を図る。</li> <li>・ 清掃中に見落としがちな箇所については、チェックリスト一覧を作成して自分でポイントを確認しながら丁寧な清掃ができるようにする。</li> </ul>   |
| 指導場面                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業生活（清掃の意義）・日常生活の指導（朝の清掃の時間）・学級活動（教室、廊下清掃）</li> <li>・ 特別活動（特別教室清掃）</li> </ul>   |
| 児童生徒の変容                     | <p>意欲・意識：「とりあえずこなす」という気持ちが顕著に見えてしまうような清掃の仕方をしていたので、まずは職業生活の授業や清掃活動を中心に、清掃することの目的や周囲にどんな効果をもたらすかを考えたりまとめたりする授業を行った。丁寧な清掃や細かい箇所への気配りをするのは、学校や施設の利用者が快適な生活を送ることができ、自分の力で安全で過ごしやすい環境を整えることができることを理解することができた。年度当初に比べ、汚れやすい場所やごみのたまりやすい場所を意識できるようになり、計画性と丁寧さを考えながら清掃に取り組むことができるようになってきた。</p>   |
| 成果と今後の課題                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清掃の意義や効果を理解することで、自分だけでなく友達と協力して意欲的に清掃に取り組む様子も見られるようになった。また、産業現場等における実習でも清掃業務を行う機会があり、就労に向けての意欲との相互作用が働いていると感じる。また、清掃の技術面に関して、本生徒は高等部2年生時に作業学習でビルクリーニング班として活動したりアビリンピックに参加したりした経験もある。達成感や成功体験を積み重ねることがモチベーションになるので、自己肯定感を高める言葉掛けをしながら、改めて清掃の手順や注意点を適宜確認することでより質の高い清掃ができると考えている。引き続きチェックリストや清掃のポイントをまとめた資料を提示することも行っていきたい。</li> </ul> |

### 3 2年間のまとめと今後の課題

知的障害教育部門では、『学びのあしあと確認表』を活用し、「生活に関する」内容の実践研究を進めてきた。『学びのあしあと確認表』を活用し、実態把握を行うことで、児童生徒の指導内容や目標設定に役立てることができた。学部、学年ごとの検討会では、どのような指導を行っているかを話し合うことで、教員間で指導方法を共有することができ、連携した指導を行うことにつながった。

今後は、単元の内容、ねらい、実施時期などの見直しや「生活に関する」内容について、指導内容や指導方法が系統的になっているか、学年や学部間で検討を行っていききたい。また、生活訓練施設の活用方法についても検討し、「生活に関する」学習の充実を図っていききたい。

## 肢体不自由教育部門実践報告

### 『各教科等を合わせた指導において各教科の基本的な知識・技能を習得し、自立的に生きる力を育むための指導の充実』

#### 1 はじめに

##### (1) テーマ設定の理由

肢体不自由教育部門では、「自立的に生きる力を育てる指導の充実」を目標に児童生徒が自分から学習に取り組もうとする姿を目指して授業改善を行ってきた。食事、排せつ、清潔、健康、身の回りの整理などの項目について学習を積み重ねてきたが、小学部から高等部卒業まで「自立的に生きる力」を育成するための継続した指導内容が整っていないことが課題であった。

そこで、令和4年度からは小学部から高等部卒業まで「自立的に生きる力を育む」ことを意識し系統性と目標の焦点化に向けて、生活に関する指導内容や指導場面などの整理および明確化を図ってきた。

令和5年度からは、知的障害教育部門で活用していた生活スキルに関するチェック表および学習指導要領の「生活」「職業・家庭」「家庭」の目標や指導内容を整理した『学びのあしあと確認表』を作成し、『キャリア・パスポート』と連携して活用することとした。特に、各教科合わせた指導において、実生活に即した学習内容や指導場面の設定がされる「生活に関する」学習を小学部から高等部の12年間の学校生活の中で系統的・計画的に学習を進めることで、自立に向け必要な知識・技能の構築と定着を図ることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

##### (2) 研究計画（令和5年度から2か年）

| 月            | スケジュール  |
|--------------|---|
| 令和5年<br>4月   | ○『学びのあしあと確認表』、『キャリア・パスポート』の作成方法、活用方法を確認<br>○『キャリア・パスポート』の作成   |
| 5～6月         | ○『学びのあしあと確認表』の活用方法の検討、作成  |
| 7月           | ○『学びのあしあと確認表』を活用した指導実践  |
| 8月           | ○学部及び教育課程ごとの検討会①<br>・『学びのあしあと確認表』を活用した学習場面の検討<br>・『学びのあしあと確認表』の書式、活用方法について検討                                |
| 9～12月        | ・『学びのあしあと確認表』を活用した指導実践  |
| 令和6年<br>1～2月 | ○学部及び教育課程ごとの検討会②<br>・指導実践の発表(指導経過、内容の検討、改善)<br>○『学びのあしあと確認表』、『キャリア・パスポート』の作成(1年間の振り返り)<br>○研究のまとめ 「まどか」原稿作成 |
| 3月           | 次年度へ向けての方向性確認   |
| 4月           | ○『学びのあしあと確認表』、『キャリア・パスポート』の作成方法、活用方法を確認<br>○『キャリア・パスポート』の作成   |
| 5月           | ○『学びのあしあと確認表』の作成  |
| 6～7月         | ○各学部一事例のテーマ、指導目標、手立ての決定   |

|            |  |
|------------|--|
|            | ○『キャリア・パスポート』『学びのあしあと確認表』を活用した指導実践           |
| 8月         | ○学部ごとの検討会①<br>目標及び指導内容、教材等の検討、改善             |
| 9～11月      | ○『キャリア・パスポート』『学びのあしあと確認表』を活用した指導実践・記録        |
| 12月        | ○学部ごとの検討会②<br>○研究のまとめ「まどか」原稿作成<br>○「まどか」原稿提出 |
| 令和7年<br>2月 | ○「まどか」報告会                                    |
| 3月         | 次年度へ向けての方向性確認                                |

## 2 実践報告

### (1) 令和5年度実践報告

- ア 『学びのあしあと確認表』、『キャリアパスポート』  
『学びのあしあと確認表』は、「日常生活編」「洗濯・衣服の手入れ編」「掃除編」を使用し、実態把握を行った。  
『キャリアパスポート』は、『学びのあしあと確認表』の実態把握をもとに、児童生徒、保護者と相談し、『自分のことを知ろう』の目標設定、年度末に振り返りを行った。
- イ 『学びのあしあと確認表』の活用方法の検討、作成  
(ア) 『学びのあしあと確認表』を活用した実態把握や目標設定をするにあたり、学部および課程での検討会を実施し、指導場面の明確化、よりよい活用方法を検討した。
- (イ) 『学びのあしあと確認表』を活用した指導実践  
『学びのあしあと確認表』をもとにした目標設定、指導実践を行い、指導内容の検討、指導方法の改善や児童生徒の変容について学部および課程で共有した。
- ウ 学部及び教育課程ごとの検討会  
(ア) 第1回検討会（8月）  
a 『学びのあしあと確認表』を活用した学習場面の検討  
チェックをした『学びのあしあと確認表』をもとに課程ごとに話し合い、学習場面を明確化する。主に、小学部『学びのあしあと確認表』①（日常生活編）、中学部『学びのあしあと確認表』②（洗濯編）※衣服の整理等、高等部『学びのあしあと確認表』③（掃除編）を担当し検討を行った。
- b 『学びのあしあと確認表』の書式、活用方法について検討  
・書式の改善：児童生徒の実態に合った目標を自由に記述できるようにしていく。  
・活用方法：日常生活編、掃除編を中心に、目標設定に活用できる。  
・チェックの方法：以下の項目で、児童生徒の実態を示す。  
【A段階】：支援者と一緒に行おうとすることができる  
【B段階】：できるだけ自分で行おうとすることができる  
【C段階】：自分から行おうとすることができる

【 / 】未実施や学習前段階

【 レ 】やっていないけれどやってみたらできそう

これにより、どこを伸ばせそうか、意識して取り組んでみたいところはどこかを確認する。また、児童生徒が実施していないことでも、経験できることはないか検討する。

c 家庭との学び成果の共有

学習場面を GIGA タブレットで記録し、保護者との懇談時に児童生徒が頑張っていることや教師の指導のねらいを伝えた。

(イ) 第 2 回検討会（2 月）

a 指導実践の発表、内容の検討、次年度への改善

学部および課程での指導実践の発表を行い、以下について確認、改善を行う。

- ・『学びのあしあと確認表』の学習項目を活用し、「キャリア・パスポート」や「個別の指導計画」の目標設定に役立てる。
- ・児童生徒の身体の動きを確認し、コミュニケーションを十分に取りながら支援を行う。
- ・過度な支援をしていないかを見直す。
- ・保護者や進路先と支援の仕方を共有できるようにしていく。
- ・児童生徒の実態に合った目標を、学習項目の下に自由に記述できるよう書式を改善する。
- ・「日常生活編」に挨拶、食事に関する項目を追加する。

エ 令和 5 年度のまとめ

『学びのあしあと確認表』を使って学習成果を振り返り、次年度の目標設定に役立てる。

『学びのあしあと確認表』を活用した実態把握をキャリア・パスポートや個別の指導計画に反映させていくことで、教師の支援を受けながら活動できること、いろいろな教師の支援を受けながらできることを増やす。自分の意思を伝えながら支援を受けて生活できることを目指していく。

(2) 令和 6 年度実践報告

知的障害教育部門と同様

オ 令和6年度 各学部における『学びのあしあと確認表』を活用した実践事例

| 肢体不自由教育部門 小学部 6年【重複課程】  |        |                   |     |
|---|--------|-------------------|-----|
| 教科名等  | 生活単元学習 | 題材名               | 買い物 |
| <b>児童・生徒の実態</b>   |        | <b>【レーダーチャート】</b> |     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由、知的障害 他</li> <li>・車椅子を使用している。自走が可能だが、安全面への配慮は必要。</li> <li>・集団での学習に参加し、主指導の指示を聞いて活動することができる。</li> <li>・身近な教師や友達に自ら話し掛け、言葉での会話を楽しむが、慣れない人や場所では声が小さくなったり表情が硬くなったりする。</li> </ul>   |        |                   |     |
| <b>指導内容に関する実態</b>   |        |                   |     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で買い物することは難しいが、教師の言葉掛けを受けて、商品をレジに持っていき、財布からお金を出し入れする、エコバックに購入した物を入れるなどの動作を行うことができる。</li> <li>・次の手順が分からないときや困ったとき、教師を見つめることで支援を求める。</li> </ul>  |        | <b>【指導項目】 支払い</b> |     |
| <b>指導目標</b>   |        |                   |     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・購入した物を受け取り、エコバックに入れる一連の動作を一人で行うことができる。</li> </ul>   |        |                   |     |
| <b>指導手立て</b>  |        |                   |     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物の手順を、イラストを用いて説明したりロールプレイングしたりしながら確認する。</li> <li>・手順表を作成し、次の動作を自分で確認できるようにする。</li> <li>・教室での模擬買い物学習や近隣施設での買い物学習を通して、実践的な学習を行う。</li> </ul>   |        |                   |     |
| <b>指導場面</b>   |        |                   |     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活単元学習</li> </ul>   |        |                   |     |
| <b>児童生徒の変容</b>  |        |                   |     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・次の動作が分からないとき、教師に支援を求めるのではなく、手順表を見て次の動作を確認できることが増えた。</li> <li>・適宜言葉掛けが必要であるが、支払い後に商品を受け取れることが増えた。</li> <li>・購入した物をエコバックに入れる手順を忘れることが多いが、教師が手順表を確認するよう促すと、自らエコバックを取り出し、購入したものを入れることができるようになってきた。</li> <li>・手順表があることで次に動作が明確に分かり、自信を持って取り組むことができるため、本児の心理的安定につながった。</li> </ul> |        |                   |     |
| <b>成果と今後の課題</b>   |        |                   |     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・手順表を作成して買い物の手順を視覚的に示すことで、本児が自ら次の動作を確認することができた。现阶段では、全ての手順が書かれた手順表を使用しているが、本児が適切に行えている部分は手順表から外すなどして支援を減らしていけるとよい。</li> <li>・模擬買い物を繰り返し行ったことで、一連の流れに沿って買い物する経験を重ねることができた。一つ一つの手順が断片的になりやすいため、模擬買い物や地域施設での買い物を通して、生活に即した実践的な学習を継続できるとよい。</li> </ul>                           |        |                   |     |

| 肢体不自由教育部門 小学部 5年 【重複課程】  |         |                   |       |
|--|---------|-------------------|-------|
| 教科名等   | 日常生活の指導 | 題材名               | 食事の指導 |
| <b>児童・生徒の実態</b>  |         | <b>【レーダーチャート】</b> |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由。車椅子使用。知的障害。日常生活全般全介助。食形態は0.5cm以下の刻み食。</li> <li>・ 知らないものや触れたくないものに対して、手を触れさせないように動かしたり、自分にとって嫌なことをされると怒ったり手首をかんだりする。</li> </ul>  |         |                   |       |
| <b>指導内容に関する実態</b>  |         |                   |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食べる順番が違ったり好みでない味のものを口に入れたりすると、スプーンを手で押し返したり、口の中に指を入れて食べ物を取り出そうとしたり、怒って大声を出したりすることがある。</li> <li>・ 体幹が保てず、給食中に上半身が倒れてしまう。</li> <li>・ 上口唇を下ろさないまま、食べ物を摂り込むことが多く、食べ物をのせる位置が舌の中央後ろになって、そしゃくせずに飲み込んでしまうことがある。</li> </ul>  |         | <b>【指導項目】 食事</b>  |       |
| <b>指導目標</b>  |         |                   |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援を受けながら上口唇を閉じて食べ物を摂り込むことができる。</li> </ul>   |         |                   |       |
| <b>指導手立て</b>   |         |                   |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上口唇を閉じるように支援する。</li> <li>・ 口の動きに合わせてゆっくりスプーンを引き抜く。</li> <li>・ 胸ベルトをしっかり絞め、上半身が倒れないようにする。</li> <li>・ 顔の体操やバンゲード法を使って、口の周りの筋肉を刺激する。</li> </ul>  |         |                   |       |
| <b>指導場面</b>  |         |                   |       |
| 日常生活の指導（給食前、給食時） 自立活動  |         |                   |       |
| <b>児童生徒の変容</b>   |         |                   |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下唇にスプーンをあて、上口唇が閉じるのを待つようにした。上口唇を閉じ、食べ物を摂り込むことができるようになってきた。</li> <li>・ 食器を口の高さにすることで、上体が起きて良い姿勢で食べることができるようになった。</li> <li>・ 上体が上がり視野が広がったことで、認知面が向上した。苦手なメニューをスプーンで口に入れようとすると、以前は顔を左右に背けて避けていたが、今はスプーンをつかんで突き放すようになった。</li> </ul>                                      |         |                   |       |
| <b>成果と今後の課題</b>  |         |                   |       |
| <p>そしゃくせずに食べ物を飲み込んだり、顔を上に向けて重力で食べ物をのどに落としたりしていたが、口唇を閉じて食べ物を摂り込むことができるようになったことで、舌の先に食べ物が置かれ、舌の動きで飲み込むことができるようになった。上体が上がり保持できるようになった理由として、自立活動で行っている座位や歩行の学習により体幹がしっかりし、バランスが保てるようになったからだと考えられる。摂食指導を行う上で、舌や口唇を使うだけでなく、舌や口唇を使うために姿勢や体の安定が重要であると今回の事例を通して分かった。今後は日常生活の指導と自立活動の両方からアプローチしていくことを念頭に置き、目標設定していく。</p> |         |                   |       |

| 肢体不自由教育部門  |  | 中学部 1年【重複課程】 |    |
|------------|--|--------------|----|
| 教科名等       | 日常生活の指導  | 題材名          | 掃除 |
| 児童・生徒の実態   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・気分が乗らないときは活動に向かえないこともあるが、教師の指示を聞いて活動に取り組むことができる。</li> <li>・上肢を肩の辺りまであげることができる。</li> </ul>  | 【レーダーチャート】   |    |
| 指導内容に関する実態 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぞうきんを持って水に濡らし、ある程度絞ることができる。</li> <li>・腕を左右に動かして机を拭くことができる。</li> </ul>  | 【指導項目】机拭き    |    |
| 指導目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に給食前や清掃時に机ふきに取り組むことができる。</li> </ul>   |              |    |
| 指導手立て      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動前に活動内容を説明し、見通しを持ち、自分で行うという意識作りをする。</li> <li>・給食前の準備に取りかかる前の一連の手順を言葉かけで促すようにする。</li> <li>・水拭きや消毒の場面によって使うぞうきんの色を変えて、自分がやることを理解しやすい環境づくりをする。</li> <li>・自分で行うことが難しい場面では、教師に依頼するよう促し、繰り返すことで自分から依頼できるようにする。</li> </ul>     |              |    |
| 指導場面       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食準備の時間</li> <li>・清掃</li> </ul>  |              |    |
| 児童生徒の変容    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期当初は、すべての動作において指示を受けて取り組むことが多かったが、給食前に机の上を片付けるよう言葉掛けを受けて、自分から「タオルを下さい。」などと教師に依頼をする場面がみられ、自ら取り組もうとする姿がみられるようになった。また、言葉掛けをする場面も減ってきている。</li> <li>・取り組む際は、最初に「水（拭き）を下さい。」と言うなど水拭きや消毒を行う順番を理解している様子が見られるようになった。</li> </ul> |              |    |
| 成果と今後の課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に対して意欲が見られ、主体的に取り組むことができるようになってきた。また、使用するぞうきんを色分けすることにより、水拭きや消毒などの順番を理解して教師にぞうきんを用意する依頼をすることができるようになった。今後の課題として、本人の身体機能の状態を見ながら本人に合った丁寧な拭き方についての指導を行っていく。</li> </ul>   |              |    |

| 肢体不自由教育部門部門 |  | 高等部 | 2年【重複課程】 |
|-------------|--|-----|----------|
| 教科名等        | 日常生活の指導  | 題材名 | 食事       |
| 児童・生徒の実態    | <p>・右半身にまひがあり、日常の動作では左手を使う。左手で物を握ったり、指先でつまんだりすることができる。</p> <p>・手元を見て、プットイン課題に取り組むことができる。集中力が途切れやすい傾向がある。</p> <p>・簡単な言葉掛けを聞いて、行動できる場面が増えてきている。</p>  |     |          |
| 指導内容に関する実態  | <p>・手に持っている物を指差しで示された場所に置いたり、ごみをごみ箱に捨てたりすることができる。</p> <p>・慣れた場面であれば、自分から決められた場所に物を置いたり入れたりすることができる。</p> <p>・捨てたごみを拾おうとするなど、場面にそぐわない行動をして周囲の反応を確かめることがある。</p>   |     |          |
| 指導目標        | <p>・給食の後片付けの流れが分かり、自分でできる部分を増やすことができる。</p>   |     |          |
| 指導手立て       | <p>・給食を食べべ終わったら、使った食器の一部やごみを手渡し、一緒に片付けに行く。</p> <p>・食器置き場やごみ箱の前で車椅子を止め、指差しや言葉掛けで片付ける場所を示す。</p> <p>・片付けに意識を向けられる関わり方や称賛の言葉掛けをして、最後まで取り組めるようにする。</p>  |     |          |
| 指導場面        | <p>・給食後に、教師と一緒に食器やごみを片付ける場面を毎日設定する。</p> <p>・登下校時の荷物整理や、学習で使った道具の返却を一緒にいき、片付けの習慣を身に付ける。</p>   |     |          |
| 児童生徒の変容     | <p>・片付けのときに、食器やごみが入った籠を自分で持ち運ぶことが定着した。</p> <p>・毎日の積み重ねにより、食器やごみを片付ける場所を覚え、自信を持って取り組むようになってきた。称賛されることを楽しみにする姿も見られる。</p> <p>・読んだ本の片付けや水分補給など、他の場面でも、できることに進んで取り組む姿が見られるようになってきた。</p> <p>・関わる教師が変わっても、言葉掛けを聞いて行動できる場面が増えた。</p>  |     |          |
| 成果と今後の課題    | <p>・できる動作や興味・関心をもとに、活動内容や支援の方法を見直し、生徒が取り組む部分を増やしていったことで、進んで行動できる場面が増えた。「やってみたい」という意欲が高く、今後も様々なことにチャレンジする機会を作ることで、主体的に取り組む姿をさらに引き出せると考える。</p> <p>・給食後の机拭きなど、自分から取り組むのはまだ難しいことがある。活動の意味や始まり・終わりが分かって取り組めるよう、手順や補助具、言葉掛けの仕方を工夫して指導したい。</p> <p>・周りの人に関わってほしい気持ちから、場面にそぐわない行動で注目を集めようとするところがある。自他の安全に関することは、毅然とした態度で指導することを共通理解する(放課後デイや実習先とも、必要に応じて情報交換をする)。人との関わりを楽しめる良さを生かし、安全に配慮しながら、人間関係を広げる機会を確保していきたい。</p> |     |          |

【レーダーチャート】



【指導項目】 食事

### 3 2年間のまとめと今後の課題

「自立的に生きる」とは、自分の意思を持って、他者からの支援を受けながら生活することである。そのために、身近で支援をする教師は、じっくりとやり取りを重ね児童生徒の意思を確認すること、適切な目標のもと、学習経験が積み重ねられるようにすることが重要になる。また、自分の意思を表出できるような学習環境を整えていくことも必要である。

本研究では、『学びのあしあと確認表』を活用することにより、児童生徒のできつつあるところに着目した実態把握をすることができた。また、活用の仕方を工夫することにより、児童生徒に合った目標設定に役立てることができた。課程および学部での検討会では、より良い指導内容や指導方法を検討し、教員間で共有することができ、連携した指導を行うことにつながった。今後は、単元の内容、ねらい、実施時期などの見直しや「生活に関する」内容について、指導内容や指導方法が系統的になっているか、課程や学部間で検討を行い、「生活に関する」学習の充実を図っていきたい。

## 病弱教育部門 ひばり分教室実践報告

### 『効果的にオンラインを活用するための授業実践—事前学習の充実の視点から—』

#### 1 はじめに

##### (1) テーマ設定の理由

ひばり分教室は獨協医科大学病院小児科病棟内にあり、活動に制限のある環境であるため外部との連携にオンラインを活用している。オンラインを活用した授業では、機器を操作して学習する場面が多く、児童生徒が自在に操作できるようになることでより効果的に学習できるのではないかと考えた。さらに、必要な機器等の環境を整えながら、教師がそれらを活用した教材の作成や指導力の向上を目指すことで、児童生徒の学習の充実を図りたい。そこで事前学習の充実に視点を置きながら、オンラインを活用した授業実践を行い、その教育効果を明らかにするため本テーマを設定した。

##### (2) 研究計画

###### ア 令和5年度研究計画

研究概要は以下の通りである。

- ・オンライン授業を見据えた事前学習及びオンライン授業を計画、実施する。
- ・事前学習及びオンライン授業の実施後、児童生徒と教師に質問紙への回答を依頼して成果と課題をまとめる。
- ・情報機器やWEB会議システムについての研修を行い、教師のオンラインを活用した指導力の向上を図る。

###### イ 令和6年度研究計画

- ・オンライン授業を見据えた事前学習及びオンライン授業を計画、実施する。
- ・事前学習及びオンライン授業の実施後、児童生徒と教師に質問紙への回答を依頼して成果と課題をまとめる。
- ・児童生徒のオンライン授業で情報機器を操作する機会を増やすために、各教科を通して情報機器を活用することで児童生徒の情報機器の技術の定着を図る。
- ・教師がオンラインで授業を行うための知識や技能の習得を図る。
- ・児童生徒、教師への情報機器、学習内容のアンケートを実施し、次の学習に生かしていく。

#### 2 実践報告

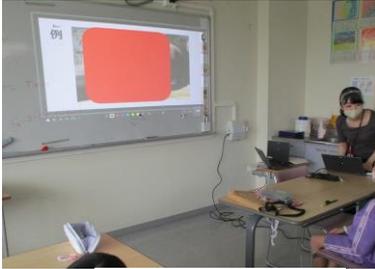
##### (1) 令和5年度実践報告

###### ア 事前学習及びオンライン授業の実施

###### (ア)－1 ALTとの授業

###### a 事前学習

|     |   |
|-----|---|
| 活動名 | ALTとの授業の事前学習  |
| 日にち | 令和5年6月21日、28日                                       |
| 内容  | ①ALTとの学習の概要説明<br>②歌、自己紹介の練習<br>③パワーポイントを用いた動物クイズの作成 |
| 課題  | ・機器の操作に慣れているかどうかで、クイズ作成の進度に差が出た。                    |

|    |   |  |
|----|---|--|
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・短いフレーズを用いた英語のやり取りは、事前学習で繰り返し行うことで身に付けるのもよいと感じた。</li> <li>・児童生徒自身でクイズを作成したため、納得できるものができたときは本番への意欲が高まった。</li> <li>・クイズの作成には、好きな動物の写真を選んだ。選んでいるときは楽しそうに取り組んでいた。また、写真を覆う図形の大きさや形を試行錯誤しながら、オンライン授業当日への意欲を高めることができた。</li> </ul> |  <p style="text-align: center;">クイズ作成場面</p> |
|----|---|--|

b オンライン授業

|     |   |  |
|-----|---|--|
| 活動名 | ALT とのオンライン授業   |  |
| 日にち | 令和5年6月30日   |  |
| 内容  | ①自己紹介<br>②英語を使った歌、ゲーム   |  |
| 課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌を歌うことについて、人目を気にする児童生徒が多く、大きな声で歌うことが難しかった。</li> <li>・小学部1年生にとっては、英語での自己紹介やクイズの出題は難易度が高かった。</li> <li>・PC と iPad を使用したことでハウリングが起きた。<br/>→マイクを一か所にすることで解消された。</li> </ul> |  |
| 成果  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒と ALT が、一対一で自己紹介等の会話をする事ができた。</li> <li>・当日の児童生徒の在籍状況から学習グループを編成したことで、積極的に授業に参加できた（①小1～4年生、②小6～中1生）。</li> </ul>  |  |

(ア) - 2 ALT との授業

a 事前学習

|     |  |  |
|-----|--|--|
| 活動名 | ALT との授業の事前学習  |  |
| 日にち | 令和6年1月24日、31日  |  |
| 内容  | ①ALT との学習の概要説明<br>②自己紹介文の作成<br>③自己紹介、ゲーム（「NOT31」「Simon says…」）の練習  |  |
| 課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・10以上の数字の英語での言い方を学習していない児童もいたため、数字の言い方を学習した。しかし短時間であったため、十分に自信を持って発音できるまでに至らない児童もいた。<br/>→当日までに答え方等の練習を実施した。</li> </ul>   |  <p style="text-align: center;">タブレット操作練習場面</p> |
| 成果  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介文の作成では、学年別にワークシートを用意したことで、実態に合わせた学習をすることができた。</li> <li>・「Simon says…」では教師の動きをまねることでゲームに参加できるため英語を話すことや聞くことに自信のない児童も意欲的に取り組むことができた。</li> <li>・「NOT31」では iPad に数字を記入していき、その画面を児童生徒全員で共有できるようにしたことで、病室の児童生徒も同時に参加することができた。</li> </ul> |  |

b オンライン授業

|     |  |
|-----|--|
| 活動名 | ALT とのオンライン授業  |
| 日にち | 令和6年2月2日   |
| 内容  | ①自己紹介<br>②出身地域の紹介（中学生のみ）<br>③ゲーム（「NOT31」「Simon says…」）   |
| 課題  | ・「NOT31」では、iPadに数字を書き込むことを楽しむあまり、ALTとの英語でのやりとりが十分にできない場面もあった。  |
| 成果  | ・「NOT31」ゲームでは、事前学習で2週に分けてiPadを使った練習をしたことで、当日はゲームの内容や機器の操作方法を理解しながら、スムーズに取り組んでいた。<br>・当日の児童生徒の在籍状況から学習グループを編成したことで、実態に合わせた効果的な学習ができた（①小4年生、②小5～6年生、③中学生）。 |

(イ) 病院探検

a 事前学習

|     |   |
|-----|---|
| 活動名 | 病院探検の事前学習   |
| 日にち | 令和5年9月27日   |
| 内容  | ①日時、探検場所の確認<br>②質問したいことを考える   |
| 課題  | ・動画撮影の際に、一般の患者やコンビニの利用客を写さないようにする必要があった。  |
| 成果  | <p>・事前に録画した映像を用いたため、治療等で設定した授業時間に受けられなかった児童生徒も、後日視聴して学習することができた。</p> <p>・見学場所の仕事の様子を映像で紹介するなど工夫がされており、当日の学習への理解が深まったように感じる。</p> |



PowerPoint 資料での学習の様子

b オンライン授業

|     |   |
|-----|---|
| 活動名 | オンライン病院探検   |
| 日にち | 令和5年10月5日   |
| 内容  | ①施設等の説明・見学<br>②働いている方へ質問をする   |
| 課題  | ・学習の中で活動する場面が少なく、見学が多かった。<br>→児童生徒の活動は質問とメモのみだったため、もう少し活動場面を増やしていく。   |
| 成果  | <p>・児童生徒にとって身近な仕事であったため、興味深く見ることができた。</p> <p>・時間配分に無理がなく、内容を十分に理解しながら参加することができた。</p> <p>・事前に質問を考える時間をとったことで、当日スムーズに聞きたいことを質問することができた。</p> |

(ウ) 工場見学

a 事前学習

|     |  |
|-----|--|
| 活動名 | 工場見学の事前学習  |
| 日にち | 令和6年2月21日  |
| 内容  | ①日時、見学場所等の確認<br>②質問したいことを考える   |
| 課題  | ・パワーポイントと Web ページの共有を繰り返す場面が多く、画面の切り替えに時間がかかってしまった。  |
| 成果  | <p>・約40年の歴史の中で多くの種類の商品があることを知り、知っている商品についても知らない商品についても楽しそうに話を聞いていた。企業への関心がうかがえた。</p> <p>・商品の製造過程を事前に学習することで（静止画を使用）、当日動画で製造過程が見られることへの期待を持つことができた。</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: center;">  <p>質問を考えよう</p> </div> <div style="text-align: right;"> <p><b>⑤「ガリガリ君」の作り方</b></p> <p>(1)材料をまぜる<br/>…( ) ( ) ( ) ( ) など</p> <p>(2)均質化…乳脂肪の粒を細かくして<br/>( ) にする。</p> <p>(3)加熱殺菌…熱をくわえて ( ) する。</p> <p>(4)冷やす…エージング室で冷やす。</p> <p>(5) ( ) を作る。</p> <p>(6)型にアイスクリームミックスを入れる。</p> <p>(7)外側が固まったら取り出す</p> <p>(8) ( ) を入れる</p> <p>(9) ( ) でふたをする。</p> <p>(10) ( ) をさす。</p> <p style="text-align: right;">使用学習プリント</p> </div> </div> |

b オンライン工場見学

|     |   |
|-----|---|
| 活動名 | オンライン工場見学   |
| 日にち | 令和6年2月29日   |
| 内容  | ①施設の説明・見学<br>②感想等の記入  |
| 課題  | ・工場見学には、本校以外の多くの学校も参加していた。そのため、事前に児童生徒が考えた質問をチャットに入力しても読み上げられなかった。児童生徒は「質問いつ?」と聞き、教師が「読み上げられなかったね。」と伝えると少し残念そうであった。必ず質問に答えてもらえるわけではないという事前の説明が必要であった。 |
| 成果  | <p>・児童生徒のコメントを教師がその場でチャットに打ち込み、リポーターが学校名とともにコメントを読み上げたときには、臨場感が増しうれしそうにする様子が見られた。</p> <p>・工場見学が始まる30分程前から準備・待機していたことで、時間に余裕を持って始めることができた。</p>         |

イ 児童生徒への質問紙の実施結果

事前学習及びオンライン学習当日について、児童生徒が項目を選んで回答できるようにした。以下、回答結果である。

(ア)－1 ALT との授業（実施日：6月30日）

①ALT や出身国についての説明のはやさは、どうでしたか？

|          |    |
|----------|----|
| はやかった    | 0名 |
| ちょうどよかった | 3名 |
| おそかった    | 0名 |

②歌はよく分かりましたか？

|         |    |
|---------|----|
| よくわかった  | 1名 |
| ふつう     | 2名 |
| わからなかった | 0名 |

③自己紹介の内容を考えるとときは、よくできましたか？

|        |    |
|--------|----|
| よくできた  | 2名 |
| ふつう    | 1名 |
| できなかった | 0名 |

④問題をつくるときはよくできましたか？

|        |    |
|--------|----|
| よくできた  | 3名 |
| ふつう    | 0名 |
| できなかった | 0名 |

(ア)－2 ALT との授業（実施日：2月2日）

①ALT や出身国についての説明のはやさは、どうでしたか？（未回答1名）

|          |    |
|----------|----|
| はやかった    | 0名 |
| ちょうどよかった | 5名 |
| おそかった    | 0名 |

②ゲームの説明は、よくわかりましたか？（未回答1名）

|         |    |
|---------|----|
| よくわかった  | 3名 |
| ふつう     | 2名 |
| わからなかった | 0名 |

③自己紹介の内容を考えるとときは、よくできましたか？

|        |    |
|--------|----|
| よくできた  | 3名 |
| ふつう    | 1名 |
| できなかった | 2名 |

④ALT への質問を考えるとときは、よくできましたか？

|        |    |
|--------|----|
| よくできた  | 2名 |
| ふつう    | 2名 |
| できなかった | 2名 |

(イ) 病院探検（実施日：10月5日）

①事前学習の説明のはやさはどうでしたか？

|          |    |
|----------|----|
| はやかった    | 0名 |
| ちょうどよかった | 3名 |
| おそかった    | 0名 |

②説明はよく分かりましたか？

|         |    |
|---------|----|
| よくわかった  | 3名 |
| ふつう     | 0名 |
| わからなかった | 0名 |

③映像はよく分かりましたか？

|         |    |
|---------|----|
| よくわかった  | 3名 |
| ふつう     | 0名 |
| わからなかった | 0名 |

(ウ) 工場見学（実施日：2月29日）

①事前学習の説明のしやすさはどうでしたか？

|          |    |
|----------|----|
| はやかった    | 0名 |
| ちょうどよかった | 4名 |
| おそかった    | 0名 |

②事前学習の説明はよく分かりましたか？

|         |    |
|---------|----|
| よくわかった  | 2名 |
| ふつう     | 2名 |
| わからなかった | 0名 |

③事前学習で、質問を考えることができましたか？

|              |    |
|--------------|----|
| 自分で考えられた     | 3名 |
| 先生と考えられた     | 1名 |
| 良い考えが浮かばなかった | 0名 |

ウ 考察

「説明のしやすさ」について、すべての児童生徒が「ちょうどよかった」と回答した。児童生徒の反応を見て、理解度を確認しながら実施することができた。(ア)－1②「歌はよくわかりましたか」への回答では、「よくわかった」が1名、「ふつう」が2名であった。歌を歌うことへの抵抗感がある児童生徒がいたことや、なじみのない英語の歌詞であったことが要因と考えられるため、活動内容の工夫が必要であると感じた。

(ア)－1③、(ア)－2③④「自己紹介／ALT への質問を考えるときはよくできましたか？」という質問に、「ふつう」「できなかった」と回答した児童生徒は合わせて約53%あった。ALT への自己紹介や質問を考えるため、英語で考えなければいけないと思い、「できない」と回答する児童生徒もいたのではないかと考えた。具体例を多く提示するなど、児童生徒の自信につながるような指導方法への改善が必要だと感じた。そこで、工場見学の事前学習の際には質問を例示したり、必要に応じて適宜教師が助言をしたりしながら学習を進めた。また、質問項目を「先生と考えられた」に変更した。その結果、工場見学の事前学習後のアンケートの「質問を考えることができましたか？」という質問には、3名が「自分で考えられ

た」、1名が「先生と考えられた」と回答した。子どもたちの「考えられた」という自信につながったのではないかと考える。

## エ 情報機器についての研修（部内研修）

### (ア) 教師へのアンケートの実施

授業で頻繁に使用されるパワーポイントの使い方について、日頃疑問に思っていることや、試したい操作などを尋ねた。回答にあった以下の操作方法について、情報部の教師を中心に実際に操作を行いながら研修を行った。

回答

- ①児童生徒が始まりと終わりを操作できるルーレットを作成したい。
- ②正解・不正解に応じて音が鳴るクイズを作成したい。

### (イ) 成果

ルーレットを用いて英単語ビンゴを実施したり、児童生徒が選んだ解答に応じて正解・不正解の音が鳴るクイズを社会科で実施したりした。教師が各児童生徒の実態に応じた教材をその都度作成できるようになったことで、教材の幅が広がった。児童生徒もそれらの教材に非常に関心を持ち自ら操作しようとするなど、意欲的な姿が多く見られた。

## (2) 令和6年度実施報告

### ア 工場見学

#### a 事前学習

|     |  |  |
|-----|--|--|
| 活動名 | 工場見学の事前学習  |  |
| 日にち | 令和6年7月3日   |  |
| 内容  | ①日時、見学場所等の確認<br>②質問したいことを考える   |  |
| 課題  | <p>・実物のカカオを教室に持ち込むことに注意が必要であった。<br/>→事前に病棟や保護者に確認し、安全に配慮して実施できた。</p> |  <p style="text-align: center;">カカオの実の観察場面</p>        |
| 成果  | <p>・カカオの実のレプリカなど、児童生徒が見たり触れたりすることができるキットを用いた。非常に関心を持って学ぶ様子が見られた。</p> |  <p style="text-align: center;">カカオの実のレプリカに触れてみよう</p> |

#### b オンライン工場見学

|     |                      |  |
|-----|----------------------|--|
| 活動名 | オンライン工場見学            |  |
| 日にち | 令和6年7月10日            |  |
| 内容  | ①施設の説明・見学<br>②感想等の記入 |  |

|    |   |
|----|---|
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>事後学習は、さまざまな学年の児童生徒がいることを踏まえて、実施時間や内容を考えると良い。</li> <li>→今回は、見学直後に事後学習を実施した。内容の定着につながったと感じる。低学年を中心に、長時間集中することが難しい児童がいることも考慮していく。</li> </ul>      |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> <li>工場内部を見る際は、事前録画してある動画を教室で再生した。タイムラグや機械トラブルがなく、スムーズに視聴することができた。</li> <li>砕いたカカオやチョコの型など、実際に使われているものに触れながら見学したことで、実感を持って学習できていたようであった。</li> </ul> |

### (イ) 病院探検

#### a 事前学習

|     |  |
|-----|--|
| 活動名 | 病院探検の事前学習  |
| 日にち | 令和6年10月2日  |
| 内容  | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 日時、探検場所の確認</li> <li>② 仕事内容、施設設備についての説明及びVTRの視聴</li> <li>③ 質問したいことを考える</li> <li>④</li> </ol>   |
| 課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>衛生面の理由から、動画撮影に入れない場所があった。</li> <li>→職員の方に撮影して頂くことができた。</li> <li>作業内容によって時間が決まっており、病院探検の授業時間に合わない。</li> <li>→事前に動画を撮影、編集し視聴する形式にした。</li> </ul>   |
| 成果  | <ul style="list-style-type: none"> <li>パワーポイント資料の他に栄養部の職員による説明動画や事前に録画した映像を用いたことで、理解が深まった。</li> <li>調理の前までに行う作業について学習できたため、病院探検当日の調理場面の見学への興味関心を高めることができた。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>材料確認場面の資料動画</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>栄養部職員のインタビュー動画を視聴</p> </div> </div> |

#### b オンライン授業

|     |  |
|-----|--|
| 活動名 | オンライン病院探検  |
| 日にち | 令和6年10月10日   |
| 内容  | <ol style="list-style-type: none"> <li>①施設等の説明・見学（VTR視聴）</li> <li>②働いている方へ質問をする（オンライン）</li> </ol>  |
| 課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>電波状況が悪く、対応が難しかった。</li> <li>→オンラインのつながり状況について、事前に何度も確認を行った。当日も、複数の方法で対応できるようにし、不測の事態に備えた。</li> </ul> |

|    |   |
|----|---|
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事を作っている栄養部という入院中の児童生徒にとって関心のある場所、仕事であったため、興味深く見る事ができた。</li> <li>・調理映像は事前に撮影して頂けたため、字幕や説明の音声を入れて編集したVTRを準備でき、児童生徒の理解の助けになった。</li> <li>・事前に質問を考える時間をとったことで、当日スムーズに聞きたいことを質問することができた。</li> <li>・質疑応答や説明などをオンラインで行ったことで、詳しく話を聞くことができ、理解が深まった。</li> </ul> |
|----|---|

#### イ 児童生徒への質問紙の実施結果

事前学習及びオンライン学習当日について、児童生徒が項目を選んで回答できるようにした。以下、回答結果である。

##### (ア)－1 工場見学（実施日：7月3日）

①工場内を見学して、工場の設備について分かりましたか？

|         |    |
|---------|----|
| よくわかった  | 2名 |
| ふつう     | 1名 |
| わからなかった | 0名 |

②カカオ豆やチョコレートの歴史について分かりましたか？

|         |    |
|---------|----|
| よくわかった  | 3名 |
| ふつう     | 0名 |
| わからなかった | 0名 |

③ミルクチョコレート等の作り方が分かりましたか？

|         |    |
|---------|----|
| よくわかった  | 2名 |
| ふつう     | 0名 |
| わからなかった | 1名 |

④事前学習で、質問を考えることができましたか？

|              |    |
|--------------|----|
| 自分で考えられた     | 2名 |
| 先生と考えられた     | 1名 |
| 良い考えが浮かばなかった | 0名 |

⑥初めて知ったことや驚いたことがありましたか？

|      |    |
|------|----|
| あった  | 3名 |
| なかった | 0名 |

##### (ア)－2 病院探検（実施日：10月2日）

①食事を作っている場所や施設が分かりましたか？

|         |    |
|---------|----|
| よくわかった  | 4名 |
| ふつう     | 0名 |
| わからなかった | 0名 |

②栄養部の仕事内容が分かりましたか？

|         |    |
|---------|----|
| よくわかった  | 4名 |
| ふつう     | 0名 |
| わからなかった | 0名 |

③食事ができるまでの流れが分かりましたか？

|         |    |
|---------|----|
| よくわかった  | 4名 |
| ふつう     | 0名 |
| わからなかった | 0名 |

④献立がどのように決まっているか分かりましたか？

|         |    |
|---------|----|
| よくわかった  | 4名 |
| ふつう     | 0名 |
| わからなかった | 0名 |

⑤事前学習で、質問を考えることができましたか？

|              |    |
|--------------|----|
| 自分で考えられた     | 3名 |
| 先生と考えられた     | 1名 |
| 良い考えが浮かばなかった | 0名 |

⑥初めて知ったことや驚いたことがありましたか？

|      |    |
|------|----|
| あった  | 4名 |
| なかった | 0名 |

## ウ 考察

今年度の2事例では「よくわかった」という回答が多い中、1事例目（工場見学）に「ふつう」「わからなかった」という回答が見られた。この結果は、対象児童生徒の学年に大きな違いがあったことに起因していると考えられる。工場見学に参加した児童生徒は小学部2年生2名と5年生1名、病院探検は小学部6年生1名と中学部3年生3名であった。

1事例目の工場見学では、申込みの時点では参加できる児童生徒の対象学年や人数などの把握が難しく、直前に対象学年を先方に伝えることが難しかった。しかし、事前学習では、実物大のカカオの実に触れたりカカオニブの香りをかいたりする体験的な内容に興味を持って学習したことで、当日の見学に対する期待が高まったように感じた。質問を考える場面でも、自分で考えられた児童生徒が多かった。当日のオンラインでの見学は小学生対象であったが、2年生には少し難しい内容も含まれていたと考えられる。理解度を確認しながら補足するなど適切な教師の支援が必要であった。

2事例目の病院探検は、入院生活中の病院内の食事を作っている「栄養部」を探検した。事前学習で仕事内容や食材を入荷する過程までを学習した。教師による説明だけでなく事前に撮影した管理栄養士の説明による材料の搬入場面、食糧倉庫などの動画を視聴し、オンライン学習当日に調理場面を見学できる流れにしたことで当日の調理場面の見学に興味関心をつなげることができた。質問を考える場面でも、複数の質問内容を書き留めている児童生徒が何人もいた。病院内の施設であることから、学習時点での児童生徒の学年や実態、興味関心などを伝えられたことで、説明場面でクイズを出して下さるなど実態に合った説明や構成で実施することが可能であった。教師側の教材作成においても同様である。

## エ 情報機器についての研修（学部研修）

### (ア) 教師へのアンケートの実施

授業や行事の際に楽しく使用できるクイズや問題を作成したいとの希望があり、児童生徒参加型のクイズ作成アプリについて研修を行った。Kahoot!を使用し、事前に作成したクイズを体験し、各自で実際に操作してクイズの作成を行った。

### (イ) 成果・考察

美術や音楽で学習した内容について Kahoot! で作成したクイズを用いて復習を行った。紙面ではなく、カラー映像や動画を見たり音声を聞いたりしながら問題に取り組めるため、学習内容を思い出しやすかったように感じた。また生徒が各自で正解・不正解の確認ができ、回答するまでの時間や正答数により順位が発表されることで、興味を持ち楽しんで取り組む様子が見られた。

教師が各児童生徒の実態に応じた教材を作成できるようになることで、教材の幅が広がっている。また児童生徒も興味を持ち、意欲的に取り組む様子が見られた。個別学習、小集団での学習など対象となる児童生徒や場に適した教材が不可欠であり、今後も研修を続けていく必要がある。

## 3 2年間のまとめと今後の課題

児童生徒が期待感を持ってオンライン授業に臨めるように、また当日意欲的に活動できるように、事前学習の充実に視点を当てて授業実践を行った。1年目は、特に児童生徒自身が機器を操作する場面が多い授業において、事前学習で機器に慣れることに多くの時間を充てた。2年目は、事前学習時から実物に触れたり、施設設備やインタビュー動画を視聴したりするなど、オンライン当日に向けて期待感を持てるような学習内容の充実に図った。さらに、授業後に児童生徒が質問紙に回答することで、理解度や達成度を確認しながら進めた。また、各授業実施後に学部内の教師にアンケートを実施することで、課題や成果等の意見を広く集めることができ、その課題を修正しながら学習内容を充実させることができたように思う。

ひばり分教室は病院内学級であるため転出入が多く、同時期に在籍する人数が少ない。そのため、行事は小学1年生から中学3年生までの複数の学年で一緒に実施することが多い。外部の見学などでは、申込みの時点では参加できる児童生徒の対象学年や人数などの把握が難しく、そのため当日参加する児童にとっては少し難しい内容も含まれてしまう。そこで、理解度を確認しながら補足するなど適切な教師の支援が必要となる。一方、病院探検は、病院内の施設であるため、学習時点での児童生徒の学年や実態、興味関心などを伝えられ、実態に沿った説明や構成で実施することが可能であった。

また通信状況については、現在、学習の際、獨協医科大学病院のFree Wi-Fi と並行して、本校より借用しているポケット Wi-Fi を利用している。それでも、場所や時間帯によってつながらないことがある。今年度は昨年よりもポケット Wi-Fi の個数を増やしそれぞれの PC と接続するなどして対応することで一定の改善は見られている。今後は本校の情報部や ICT 支援員との連携、ネットワークの環境改善が望まれるところである。

今年度は、コロナ禍での感染症対策が緩和されたことで音楽会や ALT との学習など対面で実施できるものが増えた。しかし、感染症対策、病状などから一定の行動制限がありオンラインでの活動は続いている。活動に制限がある児童生徒にこそ、オンラインでの様々な体験は有効である。複数の学年での実施が多いことから、一斉視聴時の低学年児童へのオンライン時の適切な支援だけでなく、オンデマンドで実態に合ったペースで視聴したり、

事後学習で理解が深まるような振り返りを実施したりするなどの工夫を考えていきたい。  
また研修を重ね、作成した教材を学部内で共有することで活用の機会を増やしていきたい。  
それによって児童生徒の関心に沿った教材を展開し、児童生徒の学習意欲が高まる工夫を  
しながら授業実践を進めていきたい。

## 舎務部実践報告

### 『ICT 機器を活用した生活指導の充実』

#### 1 はじめに

##### (1) テーマ設定の理由

寄宿舎では集団生活の中で、舎生同士の対話などを中心としたコミュニケーション力を高めることを重視した指導に努めており、携帯電話やゲーム機などの使用は認めてはいない。しかしながら、情報社会である現代において、情報機器を活用できることは、社会生活の中で必要な力になることも事実である。

寄宿舎生活の中に情報機器をどのように取り入れていくのかを検討した結果、GIGA タブレットを使用することで、公平性が担保されるため、寄宿舎の重点目標に「行事運営や日常生活などにおいて ICT 機器を取り入れる。」と掲げ、実践を重ねることとした。具体的には、各種オリエンテーションや季節行事、その他の様々な活動においての効果的な活用を進めるとともに、日常生活にも ICT 機器を取り入れることにより、舎生の生活を豊かにし、自分らしい余暇の充実及び、生活の技術力を育成することができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

##### (2) 研究計画

###### ア 令和5年度研究計画

| 月      | 寄宿舎での取組  |
|--------|--|
| 令和5年4月 | ・研究テーマ、研究方法についての確認<br>・昨年度までの実態確認  |
| 5～7月   | ・指導の実践   |
| 8月     | ・事例検討会①<br>① ICT 機器を活用した各種オリエンテーションや行事、様々な活動におけるメリット、デメリットと課題についての検討<br>② 余暇時間のタブレット使用におけるメリット、デメリットと課題についての検討 |
| 9～2月   | ・指導の実践   |
| 3月     | ・事例検討会②<br>① 今年度における ICT 機器活用の実践報告及び反省<br>② 次年度に向けた課題の確認   |

###### イ 令和6年度研究計画

| 月    | 寄宿舎での取組                           |
|------|-----------------------------------|
| 4～5月 | ・研究テーマ、研究方法についての確認<br>・昨年度からの継続実践 |
| 6～7月 | ・舎生の実態把握と指導の実践                    |
| 6～7月 | ・日常生活における教育用 ICT 端末の活用についての検討     |

|       |                       |
|-------|-----------------------|
| 6～7月  | ・研究の進捗状況の確認           |
| 8月    | ・実践記録の書式作成・実践へ向けての準備  |
| 9～11月 | ・舎生の実態把握と指導の実践        |
| 12～1月 | ・研究のまとめ「まどか」原稿作成      |
| 2月    | ・「まどか」報告会             |
| 3月    | ・次年度へ向けての課題と研究についての検討 |

## 2 実践報告

### (1) 令和5年度実践報告

ア 各オリエンテーションや行事、さまざまな活動における ICT 機器の活用

| 係  | 月               | ICT を活用した<br>行事や活動など                | 活動内容と舎生の主な様子  |
|----|-----------------|-------------------------------------|---|
| 庶務 | 4月              | 入舎式                                 | ・スライドによる職員紹介は、職員の顔が分かりやすく舎生の反応が良かった。  |
| 生活 | 4月              | オリエンテーション                           | ・パワーポイントを使用し、舎生心得の部分は1スライドごとに舎生を指名して読み上げてもらった。参加型にすることで、最後までスライドに注目することができた。  |
|    | 9月              | オリエンテーション                           | ・パワーポイントを使用して説明した。1学期と同じ内容の部分についても、最後まで集中して参加することができた。  |
|    | 9月              | 携帯・スマホ安全教室                          | ・家庭でインターネットの使用頻度により2グループに分けて、パワーポイントを使用して、安全な使い方を学習した。職員が読み上げる形で行ったが、スライドがあることで集中して聞くことができた。インターネットの危険性は感じており、ルールを守って使用することについては、理解することができた。しかし、インターネットの特性などの内容の理解は難しかった。 |
|    | 10月<br>1月<br>2月 | 趣味の講座<br>(第1回目)<br>(第2回目)<br>(第3回目) | ・音楽室でカラオケ大会を実施した。タブレットを使用してYouTubeで曲を検索し、テレビに繋ぎ、ワイヤレスアンプ、マイクを使用して行った。テレビの画面に字幕が映し出されることで、友達が歌っているときに口ずさむ様子が見られた。また、YouTubeからの選曲だったので自分の好きな曲を選ぶことができた。                     |

|            |     |              |   |
|------------|-----|--------------|---|
| 行 事        | 7月  | 季節の行事<br>七夕会 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・由来はアニメ動画を使用して説明したことで、従来の職員による説明より、話の内容が理解しやすくなり多くの舎生が集中して見ていた。</li> <li>・由来を動画で視聴した。舎生の反応は、良かった。その後、由来に関するクイズを行い、また、満月カレンダーを掲示したりお供えをしたりし、豆まきをしたりするなど実際に体験できる内容にした。</li> <li>・寄宿舎生活の中で、舎生一人一人の頑張っている様子を動画上映し、1年間の思い出をスライドショーにした。友達がどんなことを頑張っているのか共有することができ、お互いに称え合っていた。また、日常生活や行事の思い出を振り返り、心身共に成長したことを実感する場となった。</li> </ul> |
|            | 9月  | お月見会         |   |
|            | 1月  | 節分           |   |
|            | 2月  | お別れ会         |   |
| 保 健        | 7月  | 健康指導         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みの過ごし方について、パワーポイントを使用して説明をした。内容に興味を示し、多くの舎生が集中して話を聞くことができた。夏休み後、どのように過ごしたかアンケートを実施した。</li> </ul>  |
|            | 12月 | 健康指導         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症について、パワーポイントを用いて質問を交えながら行った。質問を投げ掛けることで、最後まで集中して参加することができた。</li> </ul>   |
| 環 境<br>防 災 | 4月  | オリエンテーション    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントを使用し、質疑応答を重ねながら進めた。資料に注目しながら説明をよく聞いていた。舎生に視覚的な理解を促すのに役立った。</li> </ul>  |
|            | 9月  | オリエンテーション    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントを使用し、避難場所を確認した。舎生は真剣に話を聞き、質問にも積極的に答えていた。その後、浸水を想定した避難訓練を行ったが、パワーポイントで確認した避難場所に落ちて行動することができた。</li> </ul>  |
|            | 1月  | オリエンテーション    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントを使用し、舎生と質疑応答をしながら、1、2学期に学習した内容の確認をした。繰り返して学習する内容が多いが、パワーポイントを活用することで、集中して参加することができ、質問に答える舎生も増え、知識が着実に定着していた。</li> </ul>  |

(ア) 成果と課題

ICT 機器を取り入れたことで、従来の活動より舎生の活動に対する参加意欲が高まりが見られた。その一方で、情報が動画だけになると、舎生の想像力が衰退するのではないかという懸念が生じてきた。また、伝えたい内容が多い場合、情報量の過多が生じるため、舎生が集中して参加できるような時間設定や内容の精選、分かりやすいパワーポイント資料を作成する必要があるなどの改善意見が挙がった。

これを受け、2学期以降のお月見会や節分の季節行事では、動画の視聴後に、クイズ方式で由来の確認をした。また、実際にお月見のお供えや豆まきを行い、日本古来の季節行事を体感することを取り入れた。

保健係の健康指導や環境防災係のオリエンテーションでは、パワーポイントを使った説明の中に簡単な設問を入れて、伝えたいポイントの定着につながるようにした。

行事後のお別れ会については、動画やスライドショーを観てもらうことで、舎生だけでなく保護者や学級担任などにも、実際の寄宿舎生活を知ってもらうことができた。

今後も内容を精選し、舎生が分かりやすく、また、考える力や想像する力を損なわないパワーポイント作りが大切になってくる。そして、更に有効な ICT 機器の活用法を考えていく必要がある。

イ 余暇時間のタブレット使用について

タブレットの導入と経緯

| 余暇時間のタブレット使用（4月～） | タブレット1台  |
|-------------------|--|
| 内 容               | タブレット学習(動画視聴)として一人5分などの時間を決めて、一人ずつ好きな動画を検索し、その動画をみんなで視聴する。   |
| 舎生の様子<br>(実態)     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味の講座やブロック活動など集団で使用した。趣味の講座では、パブリカを検索し、動画に合わせて踊り、みんなで楽しんだ。ブロック活動では、一人5分と時間を決めてそれぞれが好きなものを検索した。他舎生が選んだ動画も落ち着いて見ることができた。</li> <li>・文字入力ができる舎生は自分で入力し、難しい舎生は職員の支援を受けながら入力した。</li> </ul> |
| 反省・課題             | ・友達が好きなものを知るきっかけとなり、他者理解につなげることができた。   |

9月末に携帯・スマホ安全教室を実施。(前掲、参照)

| 余暇時間のタブレット使用（10月～） | タブレット2台・ポケットWi-Fi 2台  |
|--------------------|---|
| 内 容                | <p>(全舎生対象)</p> <p>(1)時間 19:00～19:50、20:00～20:50 (50分間)</p> <p>(2)使用場所 1F、2Fプレイルーム</p> <p>(3)予約方法及び注意点</p> <p>ア 1週間のうちテレビ、タブレットとも、予約は基本一人1回。50分間</p> |

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>のタブレットの使用ができる。</p> <p>イ テレビ使用は予約視聴を優先する。予約はテレビ及びタブレットと、タブレットのみの利用ができる。</p> <p>ウ 使用簿は各プレイルームに置き、タブレット予約は週初めの17時以降に舎生が記入する。</p> <p>エ 同じ日時に予約して、タブレットをテレビに接続することもできる。テレビ視聴者がいる場合は、テレビに接続せずに視聴する。その場合は、テレビと離れた位置で行う。</p> <p>オ 浴室清掃がある場合には、清掃を優先して行う。</p> <p>(高等部舎生のみ)</p> <p>(1)時間 21:00～21:50 (50分間)</p> <p>(2)使用場所 1F、2Fプレイルーム</p> <p>(3)予約方法及び注意点</p> <p>ア 携帯電話・スマートフォン・オンラインゲームなど、インターネット使用に関する情報モラル教育を受けた高等部舎生が使用する。</p> <p>イ 自分で調べたいことを検索して視聴する。</p> <p>ウ 2人以上の利用希望者がいる場合には、利用時間など話し合いをして調整する。</p> |
| <p>舎生の様子<br/>(実態)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の知りたい情報をすぐに得られることや、好きな情報を視聴することができるので、楽しみが増えている。また、舎生同士と一緒に視聴し、友達の好きなことも分かりコミュニケーションの幅が広がっている。</li> <li>・予約表を活用し譲り合いながら使用するなど、決められたルールを守ることができている。</li> </ul>   |
| <p>反省・課題</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他に使用する人がいないときに続けて視聴している舎生がいるので、依存につながる懸念が生じた。</li> </ul>  |

(ア) 成果と課題

余暇時間にタブレットを使用できるようになったことで、確実に舎生の余暇時間の過ごし方の幅が広がった。舎生同士のコミュニケーションの時間が少なくなるのではないかと懸念されたが、共通の趣味をもち、一緒に楽しむ姿も見られた。また、舎生からタブレットの使い方について希望や問題が出されたときには、舎生会全体会で話し合っ改善策を考えてきた。「自分達で考える」「ルールを守る」よい学習の機会にもなっている。そして、テレビの音との混在についてや、使いたい時間が重なってしまったときなど「譲り合って使う」という相手を思いやることを身に付ける良いきっかけにもなった。今後も問題が生じたときには、舎生が理解し納得してタブレットを有効に使っていけるように、今まで同様、ブロック会や全体会で話し合う機会を設けていく必要がある。また、タブレットを使用する前に安全教室を受けることで、インターネットの危険性を知る良い機会になったので、情報モラルの確認の意味も含め、続けていく必要があると考える。

## (2) 令和6年度実践報告

### ア 個別の指導計画を基にした ICT を活用した指導の実践

|   |          |
|---|----------|
| 事例1 高等部1年 男子A   |          |
| 活動内容  | ・掃除機の掛け方 |
| 舎生の実態（障害・特性など）  |          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害</li> <li>・数字に興味が高く、動作に数字を加えることで順番など理解することが多い。</li> </ul>   |          |
| 指導内容に関する現在の様子（課題など）   |          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除機のコードを最後まで引っ張り出すことはできる。</li> <li>・プラグをコンセントにしっかりと差し込むことが難しい。</li> <li>・掃除機のヘッド操作では、畳の両縁から縁まで動かすことが不十分なときが多い。体の横移動は、掃除機のヘッド幅を気にせず動いてしまうため、作業動作の間隔が広がってしまうことがあるが、目印を確認しながら操作することはできる。</li> </ul>      |          |
| 指導の目標   |          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラグをコンセントに差し込むことができる。</li> <li>・掃除機のヘッドを決められた場所から操作することができる。</li> <li>・掃除機のヘッドの振り幅を変えずに操作することができる。</li> </ul>   |          |
| 指導の手立て  |          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラグのくぼみを持ち、確実に差し込むことができているか職員と確認する。</li> <li>・掃除機のヘッドの移動先として、畳の縁に通し番号を記したテープを目印として貼り、これを確認・通過しながら移動する練習を繰り返し行う。</li> <li>・畳の縁を区切りとして、畳の目に沿いながら掃除機を掛けることを伝え、定期的に操作の様子を本人と一緒に映像で確認しながら練習をする。</li> </ul> |          |
| 指導の場面（教材など）   |          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・居室の畳の縁に数字を目印として貼り、日常生活を送りながら意識するように設定する。</li> <li>・職員の手添えや作業動作の様子をGIGAタブレットにて記録して、その映像を使用して振り返り作業をする。</li> <li>・畳の縁に数字を記入したテープを貼って、作業動作の目印にする。</li> </ul>   |          |

| 月            | 活動内容記録 |  |
|--------------|--------|--|
| 7<br>月<br>中旬 | 活動内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラグをコンセントに差し込む。</li> <li>・掃除機のヘッドを決められた場所から操作する。</li> </ul>  |
|              | 舎生の様子  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラグのくぼみを持たずにコードとの境目を持って差し込んだことで、プラグの差し込みが浅いときがあった。</li> <li>・通し番号を言葉に出して確認しながら、畳一畳分を職員と一緒に掃除機のヘッドを操作することができた。</li> </ul> |

|                    |       |   |
|--------------------|-------|---|
|                    | 反省課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員から「まだ、差し込めるよ。」などの言葉掛けやプラグの持つ部分を職員から手添えを受けたりしたことで、更に差し込むことができたので、今後は、より具体的に支援する。</li> <li>・通し番号のついた目印を目で追いながら掃除機を操作するため、足元を気にしすぎて下を向いてしまったことで、軸足が乱れ、足を1歩前に出す際に畳の縁に近づきすぎてしまったり、掃除機のヘッドの移動幅が短くなってしまったりすることがあった。</li> </ul> |
| 9月下旬<br>～<br>11月上旬 | 活動内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除機のヘッドを決められた場所から連続して操作する。</li> <li>・掃除機のヘッドの前後の振り幅を変えずに操作する。</li> <li>・活動の様子を映像で記録し振り返る。</li> </ul>  |
|                    | 舎生の様子 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・動作前に数字の配置、前後の振り幅、体の横移動について確認し、その様子を撮影することを伝えると集中して取り組むことができた。</li> <li>・撮影されていることに、最初は恥ずかしさを訴えることがあったが、機会を重ねると慣れ、気にせず行動していた。</li> </ul>   |
|                    | 反省課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・撮影されたことで行動への意識が高まり、掃除機のヘッドの前後の動きは十分に操作することができた。また、動画で自分の操作の様子を確認したことでさらに意欲が高まり、目印が設置されていない畳でも同様の動作を繰り返し行うことができた。</li> </ul>   |
| 11月上旬<br>～<br>12月  | 活動内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除機のヘッドを決められた場所から連続して操作する。</li> <li>・目印は片方の縁のみにし、掃除機のヘッドを操作する。</li> <li>・活動の様子を映像で記録し振り返る。</li> </ul>   |
|                    | 舎生の様子 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・畳の縁の目印が減ったことに戸惑うことがあったが、回数を重ねると慣れてきた。</li> <li>・振り返りでは、「おー。できてる。」など、自分の行動の正誤が分かっている様子が見られた。</li> </ul>  |
|                    | 反省課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除機のヘッドの前後移動は、数字の目印がなくても十分に移動することができた。</li> <li>・横移動は、目印があるとその場所を意識にすることができるが、目印がないと、移動幅が広がってしまうことがあった。</li> </ul>  |

|   |
|---|
| 児童生徒の変容   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を使った振り返りでは、作業動作一つ一つを確認しながら行うことができてきた。これにより成功体験が増え、自分の動作に対して自信を持つようになってきた。</li> <li>・行動の後に、「何点でしたか。」と数字で確認してくることがあり、「今回は、100点満点のうち〇〇点。」と答え、減点の理由を伝えると次への課題として覚えていることがあり、次回の活動前に「前はここがダメでした。」と発言する姿が見られるようになった。</li> </ul>  |
| 成果と今後の課題  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を使用したことで、自分でできていると思っている動作でも、実際には不十分なことを確認することができた。次の動作への意識付けや行動につなげることができた。</li> <li>・目印を常設していたため、視覚的な補助が加わり掃除機ヘッドの開始動作は迷うことなく行うことができるようになった。さらに、畳の縁を前後の可動域としたことも視覚的にも本生徒には分かりやすく、動作習得の一助となったと思われる。</li> <li>・普段から立位での安定さが不十分なときや、軸足を起点に回転することもあり、足の動作の正確性は不十分な状態であったが、映像を自分で確認したことで、足の動作への意識も高まり、横の移動が依然と比べるとスムーズになってきている。</li> <li>・今後は、キャニスター掃除機では、本体コードが作業の邪魔にならないように考えた作業動作や床に置いてある荷物の移動など作業効率を考えた動作も覚えていくことが必要である。</li> </ul> |

|  |           |
|--|-----------|
| 事例2 高等部2年 男子B  |           |
| 活動内容   | ・エプロンの畳み方 |
| 舎生の実態（障害・特性など）   |           |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害</li> <li>・ダウン症候群</li> </ul>   |           |
| 指導内容に関する現在の様子（課題など）  |           |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・エプロンを畳むことができず、職員に依頼することが多い。</li> <li>・エプロンの紐が複雑で、自分で広げることが難しい。</li> </ul>                    |           |
| 指導の目標  |           |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・エプロンを畳むことができる。</li> </ul>  |           |
| 指導の手立て   |           |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・畳み方の動画を職員と一緒に確認をする。</li> <li>・職員がエプロンを広げた状態から畳み始める。</li> <li>・角を持って合わせるよう言葉掛けをする。</li> </ul> |           |

|  |
|--|
| 指導の場面（教材など）  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 畳み方の動画を作成し、手本動画を観ながら畳む練習を行う。</li> <li>・ エプロンの上部を、舎生から見て右側になるように置く。</li> <li>・ 角が合うように畳めるまで、何度も言葉掛けをしながら繰り返し行う。</li> <li>・ 合わせる場所など職員が指を指しながら練習をする。</li> </ul> |

| 月   | 活動内容記録 |   |
|-----|--------|---|
| 9月  | 活動内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GIGA タブレットで、職員が畳む手順を撮影した動画を視聴する。</li> <li>・ 動画を見ながら畳む練習をする。</li> </ul>   |
|     | 舎生の様子  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員が映っていることに興味を持ち、自ら何度も繰り返して動画を見ていた。</li> <li>・ 自分から「動画見たいです。」と依頼することもあった。</li> <li>・ 「畳む練習をする。」と主体的に取り組む日も増えてきた。</li> </ul>      |
|     | 反省課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画に興味を持ったが、動作に取り掛かるまでに時間を要した。</li> <li>・ 衣類の端と端を重ね合わせることが難しく、角に目掛けて投げるような動作で畳むため、丁寧に畳むことが困難であった。</li> </ul>                      |
| 10月 | 活動内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一連の動作を学習するため、職員の手添えや言葉掛けで畳む練習をする。</li> </ul>   |
|     | 舎生の様子  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 畳み方の順序は理解していた。</li> <li>・ 衣類の端と端が重なっていても、しわを伸ばす動作は難しかった。</li> <li>・ 衣類を広げる動作が難しいため、職員にエプロンを差し出し「広げてください。」と依頼することがあった。</li> </ul> |
|     | 反省課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 角を合わせることを優先しすぎて、折り目部分が乱れてしまうことが多かった。</li> <li>・ 1人でしわを伸ばすことも行えたらよかった。</li> </ul>   |
| 11月 | 活動内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画視聴を通して復習をする。</li> <li>・ 折り目を合わせるポイントに注意しながら、畳み方の練習をする。</li> </ul>  |
|     | 舎生の様子  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分から動画を見て、畳むことが増えた。</li> <li>・ 自分でエプロンを広げようとする意識が見られた。</li> <li>・ 少ない手添え、言葉掛けで畳むことができるようになってきた。</li> </ul>                       |
|     | 反省課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まだ折り目部分が乱れやすい。</li> <li>・ しわを伸ばすことは難しい様子。</li> </ul>   |

|  |
|--|
| 児童生徒の変容  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期は、自分でエプロンを畳もうとすることはなく、職員に依頼することがほとんどであった。2学期から動画視聴を通じて練習を始めると、自ら畳む動作に挑戦する機会が増えてきた。また、畳み方を視覚的に理解できたことによって、職員の手添えや言葉掛けが少なくても畳むことができるようになってきた。</li> </ul>  |
| 成果と今後の課題   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・畳もうとする意識が芽生え、職員に依頼する回数が少なくなった。毎日動画を視聴しながら練習をするのではなく定期的に視聴することで、復習や意欲の継続につながり、より定着しやすくなったと考える。</li> <li>・左手でエプロンを抑え、右手で横にしわを伸ばす動作の習得に向け、しわの伸ばし方の動画を作成し、エプロン畳みの動画と合わせて視聴して練習を行いたい。今後は、一人でも畳めるように支援していく。</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
| 事例3：高等部 男子C  |   |
| 活動内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tシャツやトレーナーの畳み方。</li> <li>・衣服を取り出しやすく引き出しに収納する。</li> </ul> |
| 舎生の実態（障害・特性など）   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害</li> <li>・自閉症</li> </ul>  |   |
| 指導内容に関する現在の様子（課題など）  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tシャツやトレーナーのしわを伸ばさず丸めるように畳んで収納する。</li> <li>・Tシャツを1日に何度も着替えるため、畳むTシャツの枚数が多く、畳み方が雑である。</li> </ul>   |   |
| 指導の目標  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tシャツやトレーナーのしわを伸ばし、形を整えて畳むことができる。</li> <li>・トレーナーを取り出しやすいように引き出しに収納することができる。</li> </ul>   |   |
| 指導の手立て   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・手本動画を参考にしてTシャツやトレーナーのしわの伸ばし方を学習する。</li> <li>・洗濯物を畳むとき、一つの動作を終えるごとにしわを伸ばすよう言葉掛けをする。</li> <li>・整理されたたんすの写真を見ながら収納の練習をする。</li> </ul>  |   |
| 指導の場面（教材など）  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tシャツやトレーナーの畳み方の手本となる動画を職員が作成し、畳み方の確認をしてから練習する。</li> <li>・GIGA タブレットで本舎生の畳む様子を撮影し、振り返り学習として映像を見ながら良い点や改善が必要な点について職員と一緒に確認する。</li> <li>・自習時間や水曜日の早帰りの時間を使って畳み方の練習をする。</li> <li>・引き出しの中が整理整頓された状態を写真に撮り、収納の仕方を学習し、職員と一緒に実際に収納する練習する。</li> </ul> |   |

| 月       | 活動内容記録 |  |
|---------|--------|--|
| 9<br>月  | 活動内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tシャツのしわを伸ばして畳む練習をする。</li> <li>・ジグ（衣類を畳むときに使う正方形の板型の補助具）を使ってTシャツの形を整えて畳む練習をする。</li> </ul>   |
|         | 舎生の様子  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が左手でTシャツの胸の部分を押さえ、右手を平らにし、袖に向け滑らせてしわを伸ばす手本を見せると、動作を模倣することはできたがしわを伸ばすことは難しかった。</li> <li>・ジグを使うことで形を整えて畳むことができた。</li> </ul>  |
|         | 反省・課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・しわを伸ばす動作に苦戦する場面も見られた、Tシャツを畳の上にしわのない状態で平らに広げることに時間を要していた。</li> <li>・左手で衣類を押さえ、右手のひらを横に滑らせて、丁寧にしわを伸ばす動作も困難であった。</li> <li>・Tシャツの素材が薄くて柔らかいため、床に広げる際にしわになりやすく広げにくい様子であったため、両肩を持ち、振りさばいてからハンガーに掛けクローゼットに収納する方法を提案した。</li> </ul> |
| 10<br>月 | 活動内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーナー（長袖の衣類）の形を整え床に広げる。</li> <li>・ジグを使わずにトレーナーの形を整えて畳む。</li> <li>・職員の畳み方を撮影した手本動画を観ながら、広げ方や畳み方の手順を再確認する。</li> </ul>  |
|         | 舎生の様子  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーナーの形を整えて広げることが難しい。また、しわの伸ばし方が雑になってしまい伸ばせていない。動画を観ながらつまずきポイントを確認すると、「伸ばすのを忘れた。」との返答があり、それが口癖になっている様子が見られた。</li> <li>・ジグを使わずに畳むが、形を整えるのが難しい。</li> <li>・職員と一緒に、畳み終えたトレーナーをロール状に半分に丸めて引き出しに収納することができた。</li> </ul>           |
|         | 反省・課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーナーを床に広げるときに、両腕をしわのない状態で広げることが困難であったため、衣類の端（脇）や身ごろなどの縫い目を持ち丁寧に広げることができると良い。</li> <li>・収納しやすいようにロール状に丸め、立てる状態で引き出しの手前から奥に収納する練習をする。</li> </ul>  |

|     |       |   |
|-----|-------|---|
| 11月 | 活動内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長袖衣類の畳み方の動画を見ながら職員と一緒に、つまずきのあるポイント（広げる時のしわの伸ばし方）を確認する。</li> <li>・ トレーナーの畳み方のポイントを確認しながらジグを使わずに形を整え畳む練習をする。</li> <li>・ 畳み終えたトレーナーをロール状に丸め立てた状態で、引き出しの手前から奥に収納する。</li> </ul> |
|     | 舎生の様子 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロール状に丸め、立てて収納する手順で取り出しやすく収納することができていた。</li> </ul>  |
|     | 反省・課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トレーナーなど厚手の衣類は形を整えて畳むことができるように繰り返し練習してきたことで、しわを伸ばし、形を整えて畳む注意点などを意識して取り組むことができるようになってきた。時間を有効に使い、継続して実践できるようになると良い。</li> </ul>   |

|  |  |
|--|--|
| 児童生徒の変容  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 始めは、ピンチハンガーから乾いた衣類を取り込んで立位姿勢の状態ですみ、収納動作まで行っていたため、丸まった状態で収納されていた。そこで、個別指導や生活の達人で実際に手本を見せて練習を行った。また、タブレットを使用して手本動画を視聴し洗濯物の畳み方を学習する上で、長袖の腕などのしわを伸ばす動作や、形を整えてから畳む大切さを知ることができた。</li> <li>・ 収納の仕方については、丸めた状態でたんすの中に積み重ねるように収納していたが、取り出しやすく整理整頓された手本を参考にすることや畳んだ衣類をロール状に丸めて立てて収納することで、取り出しやすい収納をすることができるようになってきた。</li> </ul> |  |
| 成果と今後の課題   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トレーナーの畳み方の練習をしたことで、しわを伸ばし、形を整えて畳むことを意識することができるようになった。しわの伸ばし方や形の整え方を覚えたことで畳んだ後に衣類の形状が崩れることがなくなり綺麗に畳むことができるようになった。</li> <li>・ 畳んだ衣類をロール状に丸めて、引き出しの手前から立てて収納できるようになった。</li> <li>・ 丁寧な畳み方や収納を意識して取り組むことでそれぞれの動作を行うことはできるが、次の活動に気持ちが向いるときなどは動作が雑になってしまうため、見通しを持ち時間にゆとりを持って継続して実施する力が必要である。</li> </ul>                      |  |

#### (7) 成果と課題

事例1については、掃除機の掛け方について、一連の作業内容を学習した上で、動画を撮影し、職員と一緒に映像を確認することで、自分の動作の正誤に気が付き改善することができた。初めは、撮影されることに照れる様子が見られたが、継続的に実施したことで撮影し振り返ることが楽しみに変わり活動意欲の維持にも繋がった。

事例2については、職員が畳む様子を撮影した手本動画を準備することで、エプロンを畳む学習に興味をもつきっかけとなった。手順を覚え日常生活の中で繰り返し行い、反復学習として、再度動画を確認することで、苦手だった動作の復習ができ改めて意欲をもって取り組むことができた。

事例3については、畳む動作をより丁寧に行うために、手のひらを使いシワを伸ばしながら畳むことを目的に、職員が手本となる動画を準備した。動画でポイントとなる場面を繰り返し確認することができ、丁寧な畳み方が定着してきた。また、本舎生の畳み方を撮影し、視聴することで、苦手な動作や気を付けてほしいポイントを職員と一緒に確認することができた。

### 3 2年間のまとめと今後の課題

寄宿舎では、個別の指導計画に基づき舎生の実態に合わせて毎日の生活の中で日常生活動作の獲得や向上を目指し、きめ細かな指導を実践している。しかし、活動内容によっては口頭での説明だけでは理解に至らない場面もある。実践例で挙げたように、手本となるHow To動画をを用いて、視覚的に学習した内容をまねすることで、動画の流れを理解し生活の中で実践することができるようになってきた。また、動画撮影の活用においては、自分の動きを確認し、客観的に振り返ることで、注意点や課題点などの気付きに効果的であった。寄宿舎では、これまでもICTの活用が行われてきたが、個に応じた指導・支援の更なる充実を図るとともに、主体的かつ適切にICTを活用する力の育成に向けた指導も重要なポイントである。

また、舎生に伝わりやすい行事運営においては、舎生会全体会において、翌月の予定や目標などの連絡事項を事前にスライドにまとめておきモニターに映すことで、耳から入った情報を視覚的にも確認することができた。文字とイラストなどを交えた資料は、舎生にも分かりやすく以前より意欲をもって参加する姿が多く見られた。

余暇の充実の点においては、学校教育機関向けに提供されている「桃太郎電鉄教育版 Lite～日本っておもしろい！」を導入したことで、ゲームや電車に興味がある舎生が、自らタブレットを操作し、楽しむことができた。

寄宿舎では、余暇時間にタブレットを使用し、YouTube（動画共有サービス）の視聴を楽しんでいる。好きなアーティストの動画視聴を通し歌やダンスを楽しむことで、気持ちのリフレッシュを図るなど、適切な利用場面が多くあった。その一方で、好奇心のまま利用してしまい不適切な言動により周囲に不快感を与えてしまうことがあった。これを指導の機会と捉え、タブレットの利用時の注意点や周囲への配慮、仮想的社会と現実社会の分別などについて指導を行うことで、舎生の行動に改善が見られた。

本校舎生は、学習で得た知識や技能が断片的になりやすく、継続して実施することが困難である。そのような実態や場面において、ICTを活用した教材は非常に有用なものであるため、教材作成の工夫やデジタル教材の共有、指導する側のスキル向上が今後の課題である。しかし同時に、一人一人の実態を考慮した情報モラル教育の充実を図ることも必要である。インターネット社会におけるルールやマナーは舎生にはなかなかイメージしにくいいため、普段の生活の中で他者との関わり方を通して支援していくこともICT教育につながる大切な指導の一つと考える。

## 編集後記

本校のこの二年間の実践成果を『まどか』第39集としてお届けします。主体的・対話的で深い学びの実現を目指し取り組んできた指導実践の記録が、知的障害教育、肢体不自由教育、病弱教育、寄宿舎教育の様々な場面で役立つことができれば幸いです。本校でもこれまでの研究と実践をふまえ、児童生徒の学習活動の一層の充実を目指していきたいと考えております。

学習指導部研究推進係一同

令和6年度 まどか 第39集

令和7年 3月 3日 発行

発行者 栃木県立栃木特別支援学校  
校長 保坂麻紀

〒328-0067 栃木市皆川城内町 1053 番地  
TEL 0282-24-7575  
FAX 0282-25-1703